

# かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 156 号

平成26年 9月 1日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課



「2014年度医大祭 HAPPY 40 (FOR ALL)」

(写真撮影：学生支援課)

2014年度入学式 学長式辞	平成26年度 入学式	14
新生を迎えて……………吉田 晃敏………… 2	医学科入学式 集合写真……………	15
医学科新生の皆さんへ……………秋田谷龍男………… 4	看護学科入学式 集合写真……………	15
看護学科新生を迎えて……………藤井 智子………… 5	平成26年度 医学科・看護学科新生合同研修会 ……16	
教授就任のご挨拶……………紙谷 寛之………… 6	LIFE CEBUでの語学学習を通じて…鈴木 悠…………17	
教授就任のご挨拶……………藤井 聡………… 7	マヒドン大学で学んだこと ……鈴木龍一他…………18	
教授就任のご挨拶……………伊藤 俊弘………… 8	学生の立場から世界の保健医療を考え、	
皮膚科教授就任にあたって……………山本 明美………… 9	行動を起こすこと ……渡部 司…………20	
私はミッキーでもピーターパンでもないが、「空を飛べる」と信じて	海外留学助成制度を利用して	
疑わない 医学科第 6 学年 福山 秀青…………10	……………大澤 茜…………21	
新生を迎えて	授業評価 (平成25年度後期) ……	22
看護学科第 4 学年 河内山春那…………10	2014年度医大祭を終えて ……田藏 昂平…………44	
旭川医科大学に入学して	医大祭写真集 ……	45
医学科第 1 学年 遠藤 頌太…………11	安全確認システムの導入について ……	46
医学科第 1 学年 竹中 瑞希…………11	駐車場の利用マナーについて ……	46
医学科第 1 学年 奥村 大…………12	教育用メールアドレスについて ……	46
医学科第 1 学年 南部 藍子…………12	教員の訃報 ……	47
看護学科第 1 学年 鹿取 昂平…………13	教員の異動 ……	48
看護学科第 1 学年 林 薫子…………13		



2014年度入学式 学長式辞 (2014.4.7)

## 新入生を迎えて

学 長 吉 田 晃 敏

(今回はご要望により、2014年4月7日に行われた入学式 学長式辞を原文のまま掲載いたします。)

待ち望んだ春が、ここ旭川の大地にも訪れようとしております。受験を終え、こうして本学の門をくぐった皆さんにとってはまさに待ちに待った春到来ということだと思います。

本日、ご来賓の皆様並びに多数のご父母の皆様がご列席のもと、本学の入学式を迎えられる慶びを今改めて噛みしめております。

本日入学された医学科第一学年112名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、ご入学おめでとう！本学を代表し皆さんを心から歓迎致します。

医師を志す人、看護職者を目指す人、あるいは研究者を目指す人……。新入生それぞれが夢を描いてこの場に臨んでいることと思います。この「夢」、初心を決して忘れないで下さい。

今日からは、ここ旭川医科大学が皆さんの「夢の舞台」です。私達教職員は皆さんの「夢」が実現するよう応援して行きます。21世紀を担う良識ある医療人を目指して、共に切磋琢磨して参りましょう。

さて、3年前の2011年3月11日、私達の日本を襲ったあの震災から3年が経ちました。被災地では今、失われた尊い命に思いを馳せながら、新たな希望を胸に日一日と復興が進んでいます。皆さん達も医療人となるにあたって、生きることを思い巡らせて来たのではないのでしょうか。

ご承知の通り、今医療を取り巻く現状には非常に厳しいものがあります。その根幹は医師不足、看護師不足です。国が医師の増員へと大きく舵を切ったことで確かに医師は増え続けています。しかし医療格差は依然として存在しています。ここ北海道でも多くの病院で医師・看護職者が不足しています。「志」ある医師、「志」ある看護職者が今、正に求められているのです。

思い起こせば41年前、本学が産声を上げた昭和48

年。その当時から既に都市部と地方との間の医療格差が拡大しつつありました。そんな中で「地域医療を担う新たな人材育成」という高い理想の下、国が設置した新設医科大学の第一号、それが旭川医科大学です。第一期生100名、その中の一人が私でした。以来41年、必要な時に必要な医療を受けられる北海道になって欲しいというあの日抱いた夢は、学長になった今も抱き続けています。

そのために本学は入試制度を抜本的に改革し、特に北海道在住の若者達に大きく門戸を広げ、チャンスを広げました。今年度の医学科入学生は北海道出身者が6割以上を占めています。本学は皆さん方に、北海道出身者も北海道外の出身者もここ北海道の地で医療のために汗を流して欲しいと願っています。

加えて、看護学科の皆さん、看護師も事情は同じです。入院患者7人に対し1人の看護師を配置するいわゆる「7：1看護体制」を国が推奨したことで看護師の人気は一気に高まり、その結果、今や全国各地で看護師が足りない状況です。旭川でさえ看護師が足りず地方の病院は更に深刻です。このような極めて深刻な状況にある中、皆さんは看護職者を目指すのですから、ここで掴んだチャンスを地域医療のために活かして欲しいのです。

ところで、入学された皆さんの中には「もう自分の夢が叶った」と安心している方もいるでしょう。しかし、ここに大きな落とし穴があります。これから申し上げることはここ数年、医学科1年では成績不良により留年する学生が多いという残念な現実です。昨年医学科に入学した1年生112名の中で9名が進級できませんでした。一昨年の1年生は21名留年しました。入学試験で良い成績を取った学生も留年しています。これが現実です。

医学の学びは覚える知識は膨大ですが、それ以上に新たな問題を見つけ解決していく能力が要求され

まず、本学では入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に「自ら問題を見つけ、解決する意欲と行動力」を求めています。大学での学びでは、教科書を単に覚えるのではなく、自ら分かっていない部分を明らかにし、それを自分の力で理解し応用できるようにしていくことが必要です。しかもそれを生涯継続することが必要です。

大学は教師が手取り足取り教えてくれた高校、予備校とは全く違います。皆さん自身が自ら舵取り役にならなければ多くを学べない場所です。自らが目標を定め、自ら道を切り開いて前に進んで下さい。

すなわち、皆さんは旭川医科大学に入学したことで夢が実現したのではなく、単に夢の実現に向けた「スタートラインに立った」だけに過ぎません。このことを忘れ大学に入った途端に手綱を緩めてしまう学生諸君があまりにも多く、私は残念でなりません。

本学は国立大学です。国民の皆さんからの「税金」を使わせて頂き、「少ない自己負担」で「最高水準の教育」が受けられるのです。皆さんはこのことを今日この場でしっかりと自覚して下さい。

本学では、本気で勉強しようとする学生諸君のためには最高の環境を整えてきました。医学科では第一学年と第二学年に、学年担任とは別に「グループ担任制度」を導入しました。学生10人程度を1グループとして、各グループに臨床医学の教員を一人ずつ配置しました。

講義や実習を行う講義実習棟を2年間かけて全面的に新しくしました。図書館は今年度中に現在の面積の5割程を増築し、これまでの図書館を全面改修します。プレゼンテーションなどが行えるコミュニケーションラウンジやグループ学習室などを確保します。

さらに、外国の大学等への留学や語学研修に行く場合あるいは外国の大学等との交流やボランティア活動に従事する場合に、費用の一部を助成する制度や奨学金制度、授業料特別貸与制度も揃えています。

このように、本学では本気で勉強しようと思う学生諸君にとっては様々な設備そして様々な制度が充実しています。あとは皆さんの学び続ける意欲にかかっています。もう一度「スタートラインに立った

だけ」という言葉を良く噛みしめて頂きたいと思います。

そして、もう一つ大切なことがあります。それは人としての基本的な「コミュニケーション能力」を身に付けて頂きたいということです。医師として看護職者として、仮に「最高の技術」を身につけたとしても他者とのコミュニケーション能力に欠けるならば、その人は「最善の医療人」とは言えません。友人や先輩そして教員に対する「挨拶」一つを取ってみても、その人のコミュニケーション能力が見えてきます。この最も基本的な「挨拶」の意味するもの、それは何でしょうか？それは「他人への思いやり」すなわち「他者への配慮」です。壁にぶつかった友人、自分のために時間を割いてくれた先輩、そして自分達のお世話をしてくれている教職員への挨拶。その中に込められた思いは、他の人への配慮です。

大学は共に学ぶ場であると共に時に競い合う場でもあります。しかしどんな場であっても他者を気遣う「コミュニケーション能力」があれば、それは卒業後も皆さんにとってかけがえのない財産になると信じています。

確かに適切な医療技術がそして適切な薬が病や傷を癒します。しかし、他者への配慮があってこそその技術が花開きその薬が生きてくるのです。だからこそ「医は人なり」なのです。

看護学科の皆さんはこれから4年間、医学科の皆さんは6年間、それぞれの胸に秘めている大きな目標に向かい精進してください。旭川医科大学は皆さんを応援します。

さあ！皆さんが医師、看護職者になるその日を、患者さん達は心から待っています。

今日この良き日に、ここに集う「若き未来の医療人たち」の活躍を心から祈念し、学長からの歓迎と激励の言葉と致します。

入学おめでとう。

平成26年4月7日  
旭川医科大学 学長 吉田 晃敏



# 医学科新入生の皆さんへ

医学科第1学年担当 秋田谷 龍 男

入学直後にお会いしましたが、あらためて、ご入学おめでとうございます。旭川医科大学へようこそ！さて、皆さんが入学して既に1年の四分の一が過ぎました。大学生活には慣れましたか？旭川の風土はいかがですか？初めての”大学生の夏休み“を体験して、大きく夢を膨らませ、あるいは盛り沢山の計画をこなすのに精一杯だった人も多いことでしょう。皆さんのこれからの毎日が日々楽しく進んで行くことを願っています。

本学では勉学や生活に関する相談役として、各学年に“学年担当”がおかれています。学年担当は1年生と2年生については一般教育の教授、3年生と4年生は基礎医学の教授、5年生と6年生は臨床医学の教授からそれぞれ1名が選ばれ、2年の任期を務めることになっています。私は現在第1学年の担当ですが、来年は第2学年の担当として、皆さんが2年生を修了するまで引き続き担当します。学業のことはもちろんですが、生活上や健康上の悩みも、ささいなことでも良いですから、いつでも気兼ねなく相談して頂きたいと思います。私だけでなく、場合によっては私が窓口となって、問題を解決できるスタッフや専門家に相談をお願いしますので、勉強以外のことも遠慮なくご相談下さい。どうぞよろしくお願い致します。

最近学内で出会う皆さんの多くは、屈託のない余裕を感じさせる表情で、青春を自由に謳歌しているようにお見受けします。でも一方では自分の生活の軌道をまだしっかりと踏み出せずに迷っている人も少なからずいます。皆さんのなかに、医師になりたいという明確な目標を持たずに入学した人はひとりもいないはずですが、しかし、その方法論は何か、自分はどう進んで行くべきかを真剣に考えている人はどれくらいいるのでしょうか。“だまっけても（＝言われたことをやっていたら＝何もなくても）”そのうち医師になれる、とは思っていないのでしょうか。大学の医学部に入学することは確かに大変なことだったと思います。しかし、これから医師になるためには、さらに大変な道のりを超えていかなければならないということに、気づいて頂きたいと思います。

新入生の皆さんに、私からお伝えしたいことが二つあります。

## 1. 皆さんは人生の大きな変化点にいる。

大学での勉学や生活に要求されることは、これまでとは根本的に違います。①目の前の試験に合格することだけを目的とした表層的な言葉の暗記は無意味で無力です。大学の特に基礎教育（一般教育や基礎医学を含む）の段階では物事の基本原理を理解するよう努力して下さい。なぜそれを勉強しなければいけないのかも自ずと理解できるはずですが、もちろん医師になるために記憶しなければならないことは

膨大にあります。しかし、基本原理や基礎理論を無視して問題がないほど甘くはありません。②大学の教育は皆さんが自ら積極的に求めるものであって、教員から受動的に与えられるものではありません。勉強をするかしないかは皆さんの自由です。全部皆さん自身の責任です。ただし、私たち教員は、皆さんが学士という学位を授与され、医師となるためにできるだけの支援をするとともに、皆さんがそれにふさわしい結果を出したかどうか、責任をもって判断しなければなりません。したがって各科目の単位認定は厳正・平等に誤りなく行われます。ここに“甘え”が入る余地は微塵もありません。近年残念ながら進級の機会を逸した人々には少なからず“甘え”があったようです。皆さんはくれぐれも誤解のないようにして頂きたいと願っています。③近年、医学部で教育すべき内容は整理・明確化されています。教員側は皆さんに必要なことを全て教えようと努力しています。しかし、医療の進歩に伴って皆さんが習得すべきことが年々増える一方で、基礎教育に使える時間は限られています。講義や実習では必要最小限のことしか教えることができません。したがって、皆さんには習っていないことでも自ら意欲的に学習し、問題を探究する姿勢が不可欠です。

## 2. 皆さんには時間的余裕がない。

入学直後の挨拶でも言いましたが、医学部生には時間的余裕がありません。勉強すべきことが年々増えているのに、修業年限は変わらず、しかも決して多くありません。米国の事情を想像してみてください。Medical Schoolは4年制大学を卒業してから入学する学校です。皆さんはそのレベルを下回ることがあってはいけませんから、多くのことを限られた時間で習得する必要があります。しかし一方で、皆さんは健康な若者です。青春まっただ中です。いままでそれが十分できなかったという内情もあるでしょう。勉強以外に経験すべきことも、実は多いのです。立派な大人となるために。ですから結論は、両方やることです。勉強と青春（遊びもバイトも勉強以外の全て）、どちらも“必死に”して下さい。正しく言うと、どちらも必死にやらないといけません。どちらもやらずに、ぼうっとしている暇はないのです。とても忙しい毎日です。でもやりとげてごらんなさい。大きな実りを得ている自分に気づくはずですが、幸せとはそうやってつかむものです。1年生の皆さんにはシリアスに聞こえるかもしれませんが、しかし、医学部はシリアスなのです。それを心行くまで楽しんで、ゆくゆくは立派なプロフェッショナルとして輝く未来へ踏み出して頂きたいと、私たち教員は心から願っています。皆さんのこれからの進歩に大いに期待しています。

（化学 教授）



## 看護学科新入生を迎えて

看護学科第1学年担当 藤井 智子

まだ道のいたるところに雪が残る4月、60名の新入生を迎えることができました。ご入学おめでとうございます。心からみなさんを歓迎いたします。

今年は北海道出身の学生を中心に東北、遠くははるばる沖縄からも新入生を迎えることができバリエティに富んだ学年になりそうです。入学して間もなく、札幌から来た学生からは旭川は自然が豊か、でも何もなくてさみしい、道北・道東から来た学生からは都会で楽しいなど話しており、旭川に対する印象はそれぞれでしたが、4年後には旭川で学んでよかったと団結してほしいと思っています。

早いもので、この文章を書いているのは7月末です。入学から3か月経ちました。みなさんは大学入学後初めての夏休みとなりリラックスしている頃だと思います。担任としてみなさんの学習や生活がスムーズにいくよう取り組んできましたが、本学に着任し11年目にして初めての担任ということで新入生同様わたしも緊張の連続であったように思います。この3か月間での新入生とのやりとり、出来事を思い出しながら、これからの4年間の学生生活が爽りあるものになるよう、いくつかメッセージをお伝えしたいと思います。

まず、この4年間で若い皆さんはいろいろな人と出会い、新しい体験を積み重ね、長い人生の中で最も変化に富んだ有意義な日々を過ごすことになるでしょう。一生涯の友人を得られるのもこの時期だと思いますので、勉強や実習など苦楽を共にする友人をぜひ大切にしてください。

次に勉強の方法です。既に本学の教員から、1年生の課題の取り組みの甘さを指摘されています。厳しい入学試験のあとですのでふっと気を抜いているのかもしれませんが、しかし、本当の勉強はこれからです。なんといっても国家資格を得る学習というのはそう甘いものではないことは想像に難くないはずです。高校では学習内容・方法が決められ、先生が学生を導きある一定レベルまで引き上げてくれますが、大学ではそうはいきません。教えてもらうという姿勢では教えてもらったこと以上のことは何も生み出さず、創造していく力が身に付きません。一つ

一つ手を取り教えられることを期待せず、手がかりを教員から掴み取り自分で進んでいくことです。もちろん求められれば教員も丁寧にサポートしていくつもりです。自分に何が足りないのか判断し、怖がらずにぜひ教員を頼ってほしいと思っています。

『なんとかなるのでは』という根拠なき自己判断が大きな失敗を生むこととなります。1年生の時は勉強方法を身に着けることが大切です。新入生の皆さんは将来、どんどん発展し教員を超える存在になると思っています。このように期待するあまりつい勉強の仕方について長々と書いてしまうのは反省です。

また、自分の学生生活を管理するということを心がけてください。クラブ活動、アルバイトで課題に取り組むための準備ができない新入生もいました。親元を離れた人はそれに自炊等やらなければならないことが加わります。今、何を優先すべきことなのかを考え実施する練習が必要です。そして将来健康づくりに携わる医療人として、今から健康的な生活習慣が身に付くようにしてください。いざ健康的な行動がとれるかという多くの課題に取り組まなければならない皆さんにとっては大変難しいものです。しかしこの難しさは患者さんや住民の方々の気持ちを理解するのに役立ちます。

最後になりますが、最初から上手にできる人はいません。失敗を恐れず、逆に失敗したからこそ深く学ぶこともできますので、たくさん悩み試行錯誤してください。そして、困ったときはいつでも担任のところに相談に来てください。旭川医科大学は空港側から見ますと本当に田園の中に立っていると実感できる大学ですが、このような豊かな自然の中で伸び伸びと学んでほしいと思っています。最初にも申しましたが旭川で学んでよかったと思えるよう仲間たちと切磋琢磨して頑張ってください。そのためのサポートには惜しみなく担任として力を注ぎたいと思っています。



## 教授就任のご挨拶

旭川医科大学医学部  
外科学講座心臓大血管外科学分野 教授 紙谷 寛之

平成26年3月14日付で、外科学講座心臓大血管外科学分野の教授を拝命いたしました。私は富山県魚津市に生まれ育ち、平成9年に北海道大学を卒業いたしました。同年実家に帰るつもりで金沢大学第一外科教室に入局し、心臓外科を中心とした外科一般を学びました。平成15年にドイツのハノーバー医科大学に臨床留学いたしました。平成18年に留学終了に伴い一時金沢大学に戻りましたが、同年ドイツのハイデルベルグ大学に就職することとなりました。その後、上司の異動に伴いイェナ大学を経て、平成21年よりデュッセルドルフ大学にて准教授として勤務してまいりました。実家に戻るつもりが富山から1万キロも離れたドイツで一生暮らしていくのかと思っておりましたが、今回縁があり旭川医大でお世話になることになりました。

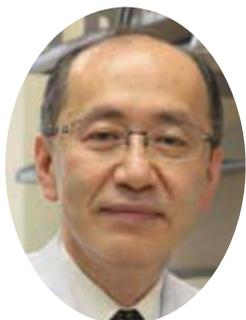
学生のころはスキー部でクロスカントリースキーをしていました。旭川で生活するのは初めてですが、学生時代は旭岳では例年11月上旬より12月中旬まで合宿しており、私にとって旭川はなじみの深い土地です。日本のクロスカントリーのカレンダーは11月上旬に旭岳で始まり、日本のほぼすべてのクロスカントリースキー競技者が旭岳に集います。12月中旬から下旬にかけてさらに北の音威子府で大会が開かれるため、みんなでそろそろと音威子府に移動します。その後、1月上旬に札幌で大会が行われるまで、旭川や和寒で合宿を行い、札幌の大会が終了すると今度は本州で行われるインカレのため、これまたそろそろとそちらに移動します。その後は合宿のほうは中休みとなり、札幌の白幡山で練習しますが、2月には道インカレもあり、名寄などに移動します。その間、札幌スキーマラソンや湧別川スキーマラソンといったイベントもあります。3月にはいるとすぐに東医体のため本州に移動し、3月中旬の本番に備えます。東医体が終わると長野で行われる大会に出場し、シーズンの終わりを迎えます。最終学年である5年生の時はインカレ終了後、富山県選手権、

国体、全日本選手権と大会が続き、冬の間札幌にはほとんどいませんでした。

そういうわけで、冬の間はほとんど授業・実習には参加できませんでした。では夏の間はまじめに授業を受けていたかというところではなく、冬のスキー活動の資金をためるためのバイトなどで忙しくしており、これまた不真面目な学生でした。最終学年の5年生の時には7月下旬から9月下旬まで、オーストリアで自衛隊と共に合宿をしましたので、5年生の時はほとんど授業・実習に出ていなかったこととなります。それでも留年することなく卒業できたのは今から考えると不思議ですが、おおらかな時代であったのであろうと理解しています。

奇跡的に卒試・国試に合格し、金沢大学に入局した当初は、同期の仲間の知識の豊富さに愕然とし、打ちひしがれる毎日でした。よほど頑張らないとこの遅れは取り戻せないのではないかと焦り、ひたすら患者さんのそばにいて少しでも学ぶように心がけました。また、1年目の5月から3か月間は麻酔科ローテーションとなったのですが、夜は呼び出されないため、連日夜遅くまで実験室で先輩の実験を手伝ったりしました。その結果は英文論文として出版できましたが、それで論文を出す喜びを覚え、その後心臓外科を専攻した際に、非常に頻度の多い夜のICU当番の傍ら論文を書き続けました。その後、当時の教授のご尽力のおかげでドイツに留学させていただけることになりました。その後の経緯は上記のとおりです。

そのような私が教授職を拝命するのは運命のいたずらですが、せっかく与えていただいた職務に全力で当たっていきたいと思っております。旭川医大は部活が盛んな学校ですが、部活動に専念したい気持ちをこらえて出席してくれる学生の思いにこたえられるような授業・実習を行っていく所存です。皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。



## 教授就任のご挨拶

旭川医科大学医学部 教授 藤井 聡  
臨床検査医学講座

2014年4月1日付けで臨床検査医学講座教授、病院の臨床検査・輸血部長を拝命いたしました藤井聡です。道東の北見市で生まれ育ちました。小さい時は近くの坂でするそり遊び、単板でカンダハーのスキー、そして父兄が校庭に水を撒いて作ってくれたリンクでするスケートが大好きでした。札幌での大学生活と医師となってからの生活、米国での留学生活、帰国後は札幌に戻り、その後は名古屋と移動して、故郷に久しぶりに戻ってきた感じがします。旭川に住むのは初めてですが、周りを山に囲まれた地形は北見市に似ています。余暇には周囲の公園、温泉、スキー場、大雪の自然と様々な楽しみを満喫できそうで心から感謝しています。

もともと循環器内科が専門で、心血管の病気や血栓症の患者の生理活性脂質や疾患バイオマーカーの測定をしてきました。また貯蔵可能な人工赤血球の研究・開発に携わりました。歴代の教授が築かれた伝統を引き継ぎつつ、旭川医科大学および病院のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。

臨床検査医学講座は、臨床検査技術を用いて疾患の病態を解析し、予防医学、病気の早期発見、適切な治療、予後の予測などに貢献する学術性と実践性を備えた分野です。近年の網羅的な遺伝子解析や大規模タンパク質研究、先進的生理機能検査の発達を背景として、検査技術の進歩はめざましく、診療に必要不可欠な要素です。日常診療においていつどのような検査を行うかを決定し、得られた結果を適切に判断し、診断や治療に的確に反映させることは、医師の重要な仕事のひとつです。したがって、医師は検査の意義、原理、限界を理解し、得られた結果を正しく解釈する必要があります。そのような意味で、臨床検査医学講座は講義と実習を通して、将来を担う旭川医科大学の学生がよき医療人となるためのサポートをしていきます。

一方で、患者の傍で簡易迅速検査を実施し、ただちに治療につなげる検査（ポイントオブケアテスト）、手のひらサイズのポータブル検査機器の発達などは、地域医療や在宅医療にも影響を与えます。

したがって臨床検査技師はもちろん、看護師をはじめメディカルスタッフの方々の研修に力をいれ、次世代教育のために常に新しい情報を発信します。検査結果の「数値」は一般の方にも重要な情報ですから、検査数値のわかりやすいセミナーなど地域貢献にも力を入れてまいります。

既存の検査法の改良や新しい検査法を開発していくことは、臨床検査医学講座の学術面での使命です。病院の臨床検査・輸血部と一体となり、業務で遭遇する疑問や新しい知見から、検査・輸血に携わる者だからこその学術研究に取り組んでいます。各科の諸先生のご指導を仰ぎつつ、診療現場で長期間にわたって役立てていただく検査を開発することが重要と考えています。臨床検査医学の研修、新しい検査法の習得や開発に興味のある学生・医師・メディカルスタッフの来訪を心より歓迎いたします。

旭川医科大学の臨床検査の多くは病院の臨床検査・輸血部で行われています。中央採血室の採血業務、血液・尿などの検体検査、心電図・脳波・肺活量などをみる生理機能検査、心臓や血管の超音波検査、感染症の診断や感染症関連情報の提供、輸血部門に分けられます。臨床検査技師37名が所属し、高いプロ意識をもって正確・精密な検査結果を日夜迅速に提供し、血液製剤の供給や安全に輸血を行うための検査をしています。年間検査実績は約347万件と高いコストパフォーマンスを維持しています。どなたでも長い待ち時間は嫌なものです。検査機器の処理能力や人員配置に配慮して、採血の待ち時間をできる限り短縮し、迅速に検査結果を報告することで診察までの時間の短縮に貢献します。これは遠方から受診される患者様がいらっしゃる旭川医大の医療圏特性にマッチさせるため、とても大切と考えています。

中央サービス部門の一つとして患者様や各科、各部門からの希望、要望に常に耳を傾け、チーム医療において頼りにしてもらえる一員として、できる限り対応する体制を整えていく所存です。どうかよろしくご指導、ご協力をお願い申し上げます。



## 教授就任のご挨拶

旭川医科大学医学部看護学講座 教授 伊藤 俊 弘  
公衆衛生論・健康教育論

平成26年6月26日付で看護学科公衆衛生論・健康教育論の教授を拝命いたしました。この度ご挨拶させて頂く機会を与えていただきましたのでよろしくお願い致します。

私は札幌市出身で、保育園から高校までは徒歩で通学できる学校へ通いましたが、大学進学では高校生の時に購読していた進学雑誌に「学部を優先すべし」との記事に感化され、沖縄県の琉球大学保健学部保健学科へ進学致しました。琉球大学では衛生学・公衆衛生学を学び、卒業研究は疫学講座（助教授酒井亮二研究室）に所属し、そこではじめて疫学を学びました。大学卒業後は保健所など予防医学を実践する職場に就職したいと考えておりましたが、指導教官であった酒井先生の勧めもあり大学院進学を決意致しました。大学院は、北海道大学医学部衛生学講座教授の齋藤和雄先生が同大学大学院環境科学研究科社会環境学専攻衛生学講座を兼任されておりましたことから、齋藤先生のご承諾を得て大学院を受験し衛生学講座で研究をさせて頂くことになりました。

北大医学部衛生学講座は労働衛生学を中心に研究が行われておりましたが、研究領域は労働衛生に加えて学校保健学、予防医学、環境医学と多岐にわたっておりました。私はこの研究室で労働者の疲労・ストレスの発症機序や振動工具取扱者の診断法の開発、有害金属や有機溶剤等の有害物質の生体影響や必須微量元素の生体内における役割など様々な研究を通して衛生学の勉強をさせて頂きました。

大学院修了後は、ニューヨークコーネル大学医学部のArleen B. Rifkind教授の研究室で2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin (TCDD, dioxin)の生体影響に関する研究に1年10か月間従事しました。その後平成7年3月より旭川医科大学衛生学講座（山村晃太郎教授）に助手として赴任致しました。山村教授は、騒音等による聴力損失の機序を電気生理学的に明らかにする研究をされており、私もモルモットを用いて鉛や水銀などの有害物質による聴覚影響を評価する実験に参加させて頂きました。これら聴力の研究に加えて脳内の亜鉛に関する研究も継

続し、金属結合蛋白質であるmetallothioneinが記憶の形成に関与し得ることを確認するなど中枢神経系における亜鉛の意義に関する研究を行いました。

平成12年1月に東海大学から吉田貴彦先生が衛生学講座の教授として赴任され、講座の研究も免疫毒性学を主体とする内容に変わりました。吉田先生の下では免疫毒性に関する様々な調査や実験研究に従事し、また本学を対象とした職業性ストレスに関する疫学調査を実施するなど、幅広い内容の調査・研究に取り組んできました。

私が健康科学講座でお世話になってから早19年が過ぎてしまいましたが、この間に衛生学講座は平成15年に公衆衛生学講座とともに医学科初の大講座制へ移行して名称も健康科学講座に刷新されました。そして北大で学位を取得された西條泰明先生が本学に戻り健康科学講座教授になられ、教室員も2名増えて7名となり教室に活気が溢れるようになりました。一方で、平成19年に准教授の平山博史先生がすい臓がんでご逝去され、その翌年には名誉教授の山村晃太郎先生も肺炎でご逝去されるなど、悲しい出来事もありました。健康科学講座には今後も発展するよう祈念しております。

衛生学・公衆衛生学は、様々な社会問題や環境問題による健康障害を取り除き、人々の健康維持・増進に寄与することが望まれる学問領域です。私自身、これまでの研究生活を振り返りますと衛生・公衆衛生学分野では環境衛生学・労働衛生学を中心に研究を行なって参りましたが、今後は高齢化社会を見据えた人々の健康維持・増進に関わる研究にも携わっていければと考えております。

最後になりましたが、私は看護学科の一員として、今後は看護学科のみならず旭川医科大学の発展にも寄与するよう、教育や研究に加えて地域貢献をはじめとする様々な医学に関わる社会活動にも積極的に参加していく所存です。皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



## 皮膚科教授就任にあたって

旭川医科大学医学部 皮膚科学講座 教授 山本 明 美

平成26年7月10日付けで、本学皮膚科学講座の第3代目の教授に就任しました。自己紹介させていただきます。私は昭和52年に旭川医科大学医学部医学科に5期生として入学しました。クラブ活動では弓道部に所属し、大学に入ってから始めたのですが、最終的に弓道四段の免許を頂くことができました。現在は副顧問としての顧問の大崎能伸教授をサポートさせていただいています。

昭和58年に卒業後はただちに本学の皮膚科にて勤務をはじめました。最初の4年間は初代教授の大河原章先生に、その後は2代目の飯塚一先生にご指導頂きました。その間、国内外の留学時期（大阪大学第2解剖学、ロンドン大学セントトーマス病院）を除くと、一貫して本学とその関連病院（旭川厚生病院、市立稚内病院）で皮膚科医として勤務してまいりました。皮膚科のなかでの専門領域は皮膚病理組織学と、角化症です。当科では開講以来、本学と関連病院の皮膚科の生検や手術検体を自前で診断しており、現在は年間2000件前後の検体数になっています。ただ、リンパ腫や転移性腫瘍が疑われる場合は病理部、病理学教室の病理医の先生方に助けて頂いて大変ありがたく思っております。角化症については魚鱗癬の国際分類の制定や、国内外の施設からの病名不詳の症例の電子顕微鏡診断を教育研究推進センターの皆様のサポートをいただいて実施してまいりました。

研究面では角化機構の解明にたずさわってきました。皮膚は体内からの水分や栄養分の過剰な喪失を防ぎ、外界からの侵襲に抵抗して内臓を守るバリア臓器です。正常な角化ができないとそのバリア機能が低下し、アトピー性皮膚炎にみられるようにアレルギー症状がでできます。私は正常な角化がどのような機序で成り立っているのかを明らかにしてきました。具体的には角化細胞を物理的に強化する構造、

天然保湿因子を貯蔵する顆粒、角層の剥離酵素を分泌する顆粒、細胞間接着構造などの性状を報告しました。またこれらが病的となった皮膚疾患での変化も報告しました。角化に関連する新規分子の機能、局在解析などの共同研究の依頼を国内外の多くの施設からいただいております。今後は学内の各講座の皆様とも共同研究ができればありがたく存じますので、お役にたてそうなテーマがありましたら気軽にお声をかけていただくと幸いです。

教育面では皮膚科学の他に、医学英語教育に力を入れておりました。3年生の後期から4年生の前期にわたる医学英語の授業では、臨床症例や研究内容について、英語を使って学会形式で発表できるようになることを目指しています。恒例となった毎年の発表会では学生さんたちの立派なプレゼンと質疑応答がなされており、本学の学生の能力の高さを実感しています。

幸いなことに現在、皮膚科学教室には前任の飯塚一教授が残してくださった優秀な人材と多くの症例という財産がございます。これからの私の最も重要な仕事は学生教育と若手医師の活躍をサポートすることとらえています。教室員には皮膚科専門医を取得してもらうのはもちろんですが、subspecialityを持って生き生きと仕事をしていただくのが目標です。このために一人一人の長所と興味をきちんと把握することから始めます。

なお、学内では復職・子育て・介護支援センター（二輪草センター）のセンター長と卒後臨床研修センターの副センター長を兼任させて頂いております。今後も本学と附属病院がより一層学びやすく働きやすい場所になることをめざして、引き続き活動させていただく所存です。どうぞよろしく申し上げます。

私はミッキーでもピーターパンでもないが、「空を飛べる」と信じて疑わない



医学科第6学年 福山 秀 青

私は2010年度に学士編入し現在医学科6年になる。この五年間、勉強を精一杯楽しみ、部活もラグビー部、英語CNN音読会などで充実して活動した。結婚もした(祝)。

医学部の勉強は楽じゃない。でも勉強を楽しめたのは部活や結婚生活などと、大いに繋がる部分があったからだ。例えばラグビー部ではスポーツ外傷と応急処置を行う医療チームをつかってプレー環境を整備した。だから整形外科や脳外科の勉強に興味も持てた。妻とは喧嘩も多かったが、そんなやりとりの中から自分と違う価値観の存在を学んだ。これは部活メンバーと意見がぶつかるときや、患者さんに意思が伝わりにくいとき、忍耐と愛情を持って接する事の大切さを思い出させてくれた。私に刺激を与えてくれた一人一人に感謝したい。ありがとう。

みんなはどうだろうか。現状に満足か？勉強も部

活も私生活も、どーせやるなら思いっきりやろう。一秒一秒が惜しくなるくらい一生懸命に。そんなの無理だと思うかもしれない。でも人の可能性は無限だ。この一秒の価値と密度を決めるのは自分だ。学生の生活には、私生活、授業、部活、バイトの4つがあるが、一日86400秒の時間を生きるのは自分自身であり、その時間を生かすも殺すも自分次第である。もちろん授業には先生や学友の影響が大きく出る。部活やバイトも然り。中にはその質を下げ、貴重な一秒、それどころか一時間を盗まれる場合もあるだろう。でも諦めてはいけない。「もっといいものがある」そう信じる事ができるのは自分しかいない。そう信じれなくなったなら、私のところに来て欲しい。

先日ディズニーランドに行った。私はミッキーでもピーターパンでもないが、「空を飛べる」と信じて疑わない(もちろん比喩的な意味で笑)。多くの子供達が夢の国で夢を見て育っていくように、私も周りの人にInspirationalな存在でありたい。そして具体的な方法論を提示し、実際に良いものが出来る喜びを、みんなとシェアできたらいい。夢では終わらない。こんなもんじゃないでしょう。



## 新入生を迎えて



看護学科4学年 河内山 春 那

新入生のみなさん、旭川医科大学ご入学おめでとうございます。草木の緑も一段と濃く美しくなり、旭川でも暑い日が続いております。入学してからの3か月間は、めまぐるしく過ぎていったのではないのでしょうか。

旭川医科大学は医療系単科大学ということもあり、みなさんが思い描くキャンパスライフとは少し違っているかもしれません。朝から夕方までの講義や緊張感漂う看護の実習、積み重なる課題やテストをこなすことは大変であり、忙しく感じると思います。でも、すべて一人で乗り越えなくてはならないわけではありません。小さな大学だからこそ、学生同士のつながりは強くなるものです。学生生活を共にする仲間と励まし合い、時にはライバルとなることで、困難を一緒に乗り越えていくことができるのではないかと思います。その先にある達成感

大変大きく、素晴らしいものです。そんな大学生活の中で、看護学科には、メインイベントとも言える病棟実習があります。自分の勉強不足や技術不足を痛感することもあります。看護職者への道を着々と進んでいく自分の成長を実感することができると思います。なにより、一人の患者さんとじっくりと向き合うということは、看護学生の間にはしか得られない貴重な経験です。

勉強や実習だけでなく、部活動も旭川医科大学の魅力の一つであると思います。活動頻度やカラーは様々であり、きっと、みなさんも自分に合った部活動を見つけることができると思います。学科を問わず、先輩と後輩が交流し一つのことに打ち込む部活動での経験は、きっと大学生活を彩ってくれることでしょう。

私自身が今感じているように、大学生活は瞬間に過ぎていくことと思います。今だからこそできることをたくさん見つけ、みなさんが充実した学生生活を送れるよう願っています。

## 旭川医科大学に入学して



医学科第1学年 遠藤 頌太

私は現在、毎日の授業や部活動を通して充実したキャンパスライフを送っています。それでは、これから旭川医科大学に入学してからの生活について紹介したいと思います。

まず、授業に関しては、物理・化学・生物・英語などといった高校でも学習した科目に加え、医療概論・心理学・情報統計学などといった大学で初めて出会った科目を学習しました。中でも私が刺激を受け、楽しいと感じた科目は基礎生物学実習です。具体的には、血球・肝臓・卵巣・精巣などの組織標本を観察・スケッチしてそれらの働きについて調べたり、チャイニーズハムスターの解剖をして内臓や生殖器官を観察したり、マウスの発生の様子を観察したりと、やりがいのある内容が盛りだくさんでした。

また、早期体験実習もとても貴重な経験になりま

した。早期体験実習とは、実際に医療施設や福祉施設に赴き、今後の学習のモチベーションを高める目的で行われる実習であり、私は特別養護老人ホームで実習を行いました。入居者との交流の中で、言葉をうまく使えない方とのコミュニケーションの難しさを実感し、認知症などの正しい知識を身につけ、どのように意志疎通をとればよいのかを学びたいと思いました。また、職員の話を通して、患者さんのQOLを高めるためには家族の協力が必要であるということを知り、将来の医療に役立てたいと思いました。

最後に、部活動について触れたいと思います。私は弓道部と合唱部に所属していて、毎日練習に励んでいます。弓道は大学から始めたのですが、射法八節という基本動作を身につけるのが難しくとても苦労しましたが、先日ようやく的中することができました。合唱部では、医大祭で行われたコンサートに参加し、声を合わせて曲を作り上げていく喜びを感じることができました。これからの大学生活も、文武両道で頑張っていきたいです。



## 旭川医科大学に入学して



医学科第1学年 竹中 瑞希

大学に入学してから4か月がたちました。この4か月は、あっという間に感じられますが、思い出してみると濃密で、楽しさだけなら1年分の経験をしたようにも思えます。

入学前の私は同じ学部知り合いが少ないこと、推薦入試で合格したのもあって、勉強についていけるかどうか不安でした。しかし前者の不安はすぐに解消されました。大学に入って最初に「みんなコミュ力高い!」と思いました。同じ学年の人は打ち解けやすく、話しやすい雰囲気を持っていました。思ったよりも浪人生や、道外出身者も多く、いろんな話ができて楽しいです。また、先輩方も優しくだったので、どの部活に入っても楽しくやっていけそうだと思います。この6年間で一生の友人や先輩ができそうな予感がします。勉強についての不安はま

だ大きな壁に直面していないのでなんとも言えませんが、この不安な気持ちのまま油断しないのがいいと思います。

入学前と入学後で印象が変わったことは、思ったよりも忙しかったことです。大学生は高校生の時よりものんびりと過ごせるのかな~と思っていましたが全然違いました。まず授業時間が長い。部活も高校生並にやってる。加えてアルバイトしてる人も。そしてよく遊ぶ。(笑)大変だけど充実した大学生活を送れそうな気がしました。また、他の大学の友達と話していると、「自分は何のために大学に入ったのかな~」なんて言っている人がいます。しかし、旭川医大にはそんな人はいません。理由は様々ですがみんな医師や看護師になるためにこの大学に来ています。だからこそ、勉強と遊びの切り替えができてメリハリのある大学生活を送れている人が多いのではないかと思います。

私は本当にこの大学に入学して良かったと思います。そして、自分もメリハリのある生活を送って、自分の理想する医師像に近づけるように6年間に有意義に過ごしたいと思います。

## 旭川医科大学に入学して



医学科第1学年 奥村 大

僕はこの春、平成26年度新入生として旭川医科大学に入学しました。入学当時は、長かった大学入試を終えていよいよ始まる新生活に期待と不安でいっぱいでしたが、いざ始まってみるとそんなことは考える暇もないほどに、忙しい毎日でした。旭川医科大学は早期から医師職を意識した授業が盛んであるらしく、白衣を着ての実習や、学外での医療施設への体験実習、著名な先生を講師に迎えての講義など、本当に毎日が刺激的で自分の医学へのモチベーションを常に最高の状態に高めてくれる日々でした。もちろん授業が高校レベルとくらべてぐっと高度になったため試験などに備えての勉強は大変になった部分もありますが、意識を高く持ち気を引き締めて、同期の仲間と力を合わせてい

くことでこれからの様々な課題に取り組んでいこうと思います。

また、旭川医科大学の特色として、学内の沢山ある部活動がみな盛んであるということがあります。僕は今、高校時代も所属していた柔道部に入学して稽古に励んでいます。部活内の先輩や同期と大会や合宿で遠征したり、旅行したりなど今まで経験のなかったこともたくさんあって本当に楽しい、充実した学生生活を送っています。

本当に、まだ入学して半年もたっていないと信じられないほどに濃密な時間を過ごしていて、色々なことに驚かされ、学んでいる毎日です。たくさんの人や新しいことに会って、自分の成長を実感できるという充実した時間を送ってくることができました。今後もこれに留まることなく、アンテナを広く持って様々なことにチャレンジしていきながらも、これからどんどん高度に、また専門的になっていく授業もしっかりと吸収して、自分の理想の将来像に近づけるように毎日努力していこうと思います。



## 旭川医科大学に入学して



医学科第1学年 南部 藍子

旭川医大に入学して最初の1学期が終わりました。この1学期は、勉強に部活にと、忙しいながらも充実した学生生活を送ることができました。

旭医は、一学年120人程度で、同期の数が少ない分、その関わりが多いです。私も旭医に入ってさまざまな友人に恵まれ、実験で協力しあったり、試験勉強でわからないところを教えてもらったり、この短い1学期の中でも、同期に支え助けてもらった場面が多かったです。

また、旭医は部活動における縦のつながりも強いんです。私は高校でやっていた合唱部と、大学から新しく始めたブラスアンサンブル(吹奏楽部)を兼部しています。合唱とブラスは出演舞台がかぶることが多く、発表直前期は両方のリハーサルに出たりと大変ですが、両方の部長さん、そして兼部している

ほかの先輩方のおかげでどちらも頑張ることができています。また、先輩から勉強のアドバイスをいただくことも多く、勉強面でも助けられています。先日は医大病院ロビーで音楽系部活動団体の合同コンサートをさせていただき、多くの患者さんにお越しいただきました。終演後に直接温かいお声をかけてくださった患者さんもいっしょって、音楽をやっている者としても医大生としても幸せな経験でした。これからも音楽の力を感じながらこの二つの部活を頑張ろうと思います。

入学する前は、AO入試で入った私が、医学科の勉強についていけるのかとても心配でしたが、授業が進むにつれ、どの入試方法で入ったかではなく、大学でどれだけ頑張るかなのだなと感じるようになりました。旭医は単科大学ということもあり、1年生のうちから医学に関連した授業や実習があります。私は、将来何の専門の医師になるかは決めていませんが、生まれ育った北海道に貢献できる医師になりたいと考えています。そうなるためにも、1年生のうちから勉強を頑張ります。

これからも、旭川医大生の名に恥じぬよう、学生生活を楽しんでいこうと思います。

## 旭川医科大学に入学して



看護学科第1学年 鹿取 昂平

私はまだダウンコートの手放せない雪の残る4月に旭川医科大学看護学科に入学しました。沖縄県から旭川に来た私には、目に入る物事全てが新鮮で興味が尽きず、

沖縄の冬物の洋服では旭川の春にすら歯が立たないことも知りました。私は高校の修学旅行で、北海道を一週間ほど満喫し、こんなに涼しい場所がこの世界にはあったのか、と思い北海道の大学に進学したいと思うようになりました。

入学初日の緊張と高揚感は今でも覚えています。50人を超える女子に周りを囲まれドキドキし、いち早く他の看護男子を見つけて仲良くなろう、仲良くなれるか等の焦燥感もありました。しかし、焦燥感等の負の感情は杞憂に終わりました。皆、優しいばかりで安心しました。入学してから最初の二日間は

オリエンテーションで、旭川医科大学の学生であるための心得を学びました。一般科目や専門科目等の授業を受け、五月中旬に行った早期体験実習で、今までフワフワとでしか自分の看護師像を持っていませんでしたが、大学での授業が進むにつれて自分の看護師像の確立やその理想の看護師になる為に必要なことを学び、授業について行くのはとても大変ですが、日々自分が成長しているのを実感出来ていて、厳しいが楽しい、そんな毎日を過ごしています。

私は高校の頃決断も遅く、また自分に自信もありませんでした。しかし、旭川医科大学に入学してからは、良い講師、先輩、同級生に出会い、毎日を過ごしていくうちに自らに自信を持ち始め、さらに一人暮らしを始めたのをきっかけに素早い決断が出来るようになってきたと思います。入学してからは大変なことも多いが、努力を惜しまず、妥協をせずに自らの目標に突き進む精神を生み、それを育むことの出来る大学に入学出来て良かったと思っています。

## 旭川医科大学に入学して



看護学科第1学年 林 薫子

私は道東北見市の出身です。入学してから早くも3ヶ月以上が経過し、道内のみならず全国各地出身の友人や先輩方と同じ経験・時間を楽しく過ごしています。学校の雰囲気は明るく、良い人ばかりに囲まれ、この大学に入学して本当に良かったと思っています。

講義や実習については、一年目から充実していて、先生は皆学生一人一人にとっても丁寧な指導をくださっており非常に感謝しています。まだ基礎的な内容ですが、どれも将来につながるものなので、とても興味深く楽しみながら学んでいます。講義を通して、日々看護の在り方や深さ、看護における信頼関係の大切さを感じています。また実習については、基本をしっかりと身につけることが将来の正確で迅速な行動につながると思うので、集中して取り組んでいきたいです。

部活動も充実していて、学ぶことがとても多いです。私はハンドボール部のマネージャーと軟式テニス部員として活動していますが、先輩方の熱心な考えや姿勢に常に刺激を受けています。自分よりも多くの経験を積んできた先輩方やさまざまな人と関わることによって、自身の視野や考えも広がり、またこの経験も将来に生きてくると思います。

毎週のようにレポートや課題、部活動、アルバイト…など忙しい日々を送っていますが、きちんと計画を立て時間を上手に使っていきたいです。大学に入学して初めての一人暮らしにおける、心身の健康の保持や規則正しい生活にも気をつけていきたいです。

学年があがるにつれて、より高度で専門的な内容を学んでいくこととなります。自ら進んで学ぶ姿勢を持ち、同じ志を持った人々とお互いに高め合い、刺激を受けながら、自分の看護観を常に考え追究していこうと思います。

こうして勉学に集中でき、様々な活動ができるのも家族や周りの人々の支えがあってのことです。このことを忘れることなく、常に感謝の気持ちを持って、これからも充実した学生生活を過ごしていきたいです。

## 平成26年度 入 学 式

医学科・看護学科の入学式が4月7日(月)10時から本学体育館において挙行されました。

当日は日中の気温が5℃と低く、恒例の団体勧誘は皆凍えながらでしたが、緊張した面持ちで本学の門をくぐった新入生を笑顔で迎えていました。

式では、医学科112名、看護学科60名、合わせて172名の新入生を代表して医学科 相原 宏紀さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに、大学生活の第一歩を踏み出しました。



## 医学科入学式 集合写真



## 看護学科入学式 集合写真



## 平成26年度 医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成26年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月8日(火)9日(水)の二日間にわたり実施されました。

一日目は、看護学科棟大講義室に集合し、千石学長補佐の挨拶に始まり、指導教員の紹介及びオリエンテーションが行われました。その後、「旭川医科大学が重視する地域医療について」と題した全体ガイダンスが地域医療教育学講座 野津司准教授により行われ、先生ご自身の体験を交えながら、北海道の地域医療についてお話がありました。

その後、医学科、看護学科に分かれたガイダンスがあり、医学科では「最近の医師はどのように育てられているか?」と題しましたガイダンスが教育センター副センター長 蒔田芳男教授及び生理学講座(自律機能分野)高井章教授により行われました。そして、看護学科では看護学講座 作宮洋子教授、黒田緑教授、藤井智子教授による「カリキュラム履修上の注意等について」と題しましたガイダンスが行われました。

午後からは、「新入生必須!充実した大学生活を送るためのマナー」と題して、外部講師による講演が行われ、大学生として身に付けるべきマナーについて学びました。続いて、NHK旭川放送局と学生自主組織「はしっくす」の共同企画である「旭川・道北の魅力プレゼンテーション」が行われ、旭川市内及び近郊のおすすめスポットの紹介がありました。続いて、内科学講座(循環・呼吸・

神経病態内科学分野)長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」と題した講演があり、一日目が終了しました。

二日目は、千葉学長補佐による「睡眠からみたメンタルヘルス」と題した講演では、睡眠の重要性についてのお話があり、引き続き、保健管理センターの川村祐一郎教授と藤尾美登世保健師による「健康な学生生活を送るには——ほけかんとどう付き合うか——」と題した学生生活における注意と保健管理センターの利用方法の説明が行われました。次いで、内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)阿部真美特任助教による「お酒正しいつきあい方と命を守る正しい対応方法」では、相次ぐ大学生による飲酒事項を防ぐための知識を学びました。

午後からは、グループ毎に分かれて旭川医科大学病院救急科藤田智教授と及川欧先生の指導のもと、研修医の先生方から心臓マッサージの指導などがあった救急蘇生実習を行いました。旭川ろうあ協会の講師による手話の講習では、最初はぎこちない動きでしたが、講習が終了する頃には、医療現場で役立つ単語もすらすらと手を運ぶことができました。また、旭川消費者協会からは「消費者問題-トラブルとその対処方法-」を学び、二日間ではありましたが、内容の濃い有意義な研修会となりました。



▲千石学長補佐の挨拶



▲手話の講習



▲オリエンテーションの様子



▲救急蘇生実習

## LIFE CUBEでの語学留学を通じて

医学科第4学年 鈴木 悠

私は旭川医大の海外留学制度を利用して30日間、フィリピンのLIFE CUBE語学留学へ参加しました。LIFE CUBEへの留学を決めたきっかけは、私の所属する学生団体である国際医学生連盟日本（IFMSA-Japan）の活動において海外の医療系学生との交流を通じて英語能力、特にスピーキングの重要性を強く感じたからです。経済的に留学資金に難儀していましたが、本海外留学制度の存在を知り今回の留学の実現に至ることができました。

LIFE CUBEでの暮らしは選択したコースがスパルタコースということもあり、平日は午前7時から午後9時まで語学学校に缶詰状態で授業を受け、その後1時間の自習時間が義務付けられるという内容でした。はじめの数日は日常会話と毎日の生活に慣れるまで大変でしたが、次第に英語が聞き取れるようになってくると授業もより一層楽しく感じられるようになりました。また、旭川医大の長期休暇の時期が他大学よりも早い時期から始まるということもあり、日本人の参加者が少なかったことで英語学習に集中することができました。

授業の形式は原則マンツーマン形式とグループ形式での授業に分けられ、マンツーマン形式ではリスニング、スピーキング、ライティングがそれぞれ網羅され、グループ形式ではディスカッション、ゲームを利用したコミュニケーションなど、どの授業においても相手との対話に軸を置いたものとなっ



ていました。授業で扱うテーマは様々で、自国の文化や風習について考えさせるものやお互いの価値観を問う奥深い内容のテーマなどもありました。

平日は学校での学習の日々でしたが休日には外出が可能のため、現地の友人と一緒に観光地であるセブ島の常夏ビーチや路上市場などを満喫しました。フィリピンの公用語は英語であるため会話実践の場として学ぶことが多くありました。旅行先で不運にも中耳炎に罹ってしまうハプニングもありましたが、現地の病院でドクターとの交流することが出来たので今となっては良き思い出です。

本留学を通じて英語学習の貴重な体験と多くの新しい友人ができました。この機会を与えてくださった旭川医大の皆様に変感謝しております。誠にありがとうございました。



# マヒドン大学で学んだこと

— Elective Program in Tropical medicineに参加して —

医学科第4学年 吉村 昭人、鞆本 龍一、福井 理予

医学科第5学年 古川理紗子、小松美貴子、篠原 征史

## 1. はじめに

今夏、私達（医学科6名）はタイのマヒドン大学で行われましたElective Program in Tropical medicineに参加させていただきました。このプログラムを通して多くの事を学び、またそれ以外の活動を通して、様々な文化や人々に触れられたことは大変貴重な経験でした。このレポートですべてを語ることは出来ませんが、このプログラムを通して特に印象に残ったことを中心に書きたいと思います。

## 2. プログラムでの学び（前半）

まず、このプログラムは主に熱帯医学についての知識や見聞を広めることが主な目的であり、4週間あるプログラムを前半の2週間と後半の2週間に区切って行われました。前半の2週間はマヒドン大学とその附属病院における講義がメインであり、附属の病院では熱帯地域に多くみられるマラリアやデング熱などの症例を中心にward round（病棟実習）も行われました。マラリアやデング熱などは日本ではあまり見られませんが、タイや熱帯地域では患者数が多い病気です。とりわけ高熱が続いて診療に来る患者に対しては真っ先に疑う病気であり、今回のメインテーマでした。またその他ではMeloidosisなど、あまり日本では聞きなれない病名も出てきており、講義の後、ホテルに着いてから色々調べて改めて学ぶ機会も多かったです。今回私が実習全体を通して感じたことですが、医学知識に関しては多分に不足していたということです。3年生ということもあり、臨床の講義をまだほとんど受けていなかったということも一因としてありますが、先生の説明を聞いていても英語と知識の壁によって、理解が困難であることが多々ありました。歯痒い思いも多かったですが、今回学んだマラリアとデング熱の2つの疾患について、わかる範囲で簡潔にまとめてみます。

熱の出るパターンや症状を実際の現場で目の当たりにしました。このような経験は、マラリアの流行が無い日本では得難い経験であり、タイに留学した大きな意義であるといえます。加えて今後益々グローバル化が進む中で、人やモノの流れもより一層増えることも予想され、日本でも今後は鑑別診断が

重要になってくるのではないかと感じました。

## 3. プログラムでの学び（後半）

後半の二週間は地方（今回はナコンサワン）の病院に行き、そこでも病棟を回ったり、あるいはPrimary care unitを見学させてもらえる機会がありました。加えて、在宅医療の現場も見ることがあり、自宅で感染症の治療を続けている中年の女性や、100歳を超える女性の高齢者の方を見ることができました。ナコンサワンでは、バンコクの大学病院とはまた違う、より地方の実情を垣間見ることが出来たように思います。このように、4週間のプログラムを通して大学病院から地方の在宅医療まで各々の現場を見ることができ、その違いを肌で感じる事が出来ました。地方の病院では病室にクーラーが無い病棟がほとんどであるなど、今まで経験したことがないような環境に驚きもしたが、そうした日本とは違う海外の事情を見て医療の質や量の違いも感じられました。まだ私は日本での臨床実習を受けていませんが、その際には今回の経験と照らし合わせて比較しながら学びたいと考えています。プログラム全体を通しては、知識や英語力の壁もあり、臨床知識として学んだ量は日本にいるときに比べて正直少なかったかもしれないです。しかし、これを糧としてもっともっと貪欲に学びたいという気持ちが芽生えました。この気持ちを忘れずに今後も精進していくつもりです。



ナコンサワンの病院でお産の見学をした時の一枚

#### 4. その他、他国の留学生との触れ合いを通して

それ以外の部分では、日本以外から来ている海外からの留学生からは多くの刺激を受けました。留学生の内訳はヨルダンから1人（医師）、オーストリアから6人（学生）、インドネシアから5人（学生）であり、学年も3年～6年とまちまちでありましたが、彼らの英語力と知識量には大変驚かされました。彼らは英語力もあり、先生の説明に対して積極的に質問をしていました。その際私は言いたいことがとっさに出てこない歯痒さを感じることも多かったです。それはこのプログラム全体を通じても言えることでした。

講義以外の活動としてタイの文化や人々にも触れることが出来ました。王宮見学や水上マーケットなどはタイの文化や生活を感じさせてくれるものでした。タイの食事や（多くのものは辛い）や言葉の問題も大きかったです。言葉の問題に関しては、大学内や病院の先生は英語を学んでいる人が多かったです。しかし一歩外に出るとそこは英語が全く通じない世界がそこには広がっていました。これは今後他の国や地域に留学するに際しても、実際に暮らすとなると、やはり現地の言葉は学ぶ必要があり、その言語を使って初めて現地の人々とより密接な関係を築けると感じました。

最後に全体的な感想として、今後自らがどの地域で診療を行うか、さらにはどの分野を専門分野とするかで学ぶ事項は大きく変わっていくと感じまし

た。勿論ベースとなる医学知識は必須です。しかし、すべての事項に関してすべてを深く学ぶことはほぼ不可能でしょう。今回タイで実習をして感じたことは、自分が将来どこで何を目的として働いていくかをもう少し考える必要があり、それが将来への大切な布石となるということでした。

最後になりますが、今回の留学には本学の学生支援課の方々を始め、健康科学講座の先生方、吉田教授、外科学講座の古川教授など、本当に多くの方々にご尽力いただきました。改めてすべての方々に感謝の意を表しこのレポートの締めとさせていただきます。



ホームパーティでの集合写真



Elective Programの集合写真

## 学生の立場から世界の保健医療を考え、行動を起こすこと

医学科第3学年 渡部 司

私はIFMSA (International federation of Medical Students' Association日本語名; 国際医学生連盟) が主催する世界総会 (General Assembly: 以下GA) に2014年2月25日～3月10日まで、IFMSA-Japan (国際医学生連盟日本) の代表団の一員として参加しました。(IFMSA HP : <http://ifmsa.org> IFMSA-Japan HP : <http://ifmsa.jp>)

GAではSCORA: 性と生殖、エイズに関する委員会のセッションに参加しました。この委員会は、性教育の普及やHIV/AIDS予防などの性に関する健康啓発活動を世界中で行っているIFMSAの常設委員会のひとつです。私はIFMSA-Japanで活動する一方、アジア・太平洋地域のSCORAの代表として活動も行っており、今回のSCORAのセッションではこれを運営する者としても参加しました。セッションでは普段SCORAのスタッフとして活動している医学生が世界中から約100人が一同に集まり、普段各国で行われている活動の紹介、外部団体からのゲストを招いた基調講演、トレーニング、各地域・国のスタッフが直面している課題の共有と解決策のためのディスカッションなどを中心に行いました。私自身は、ポーランドの方と一緒にSocial Mediaを使ったProject Managementに関するトレーニングを行ったり、アジア・太平洋地域のディスカッションのファシリテーターを行ったりしました。多くのスキルを学べただけでなく、高いモチベーションとコミュニケーション能力を持った海外の医学生と交流でき、多くのインスピレーションを得ることができました。

昨年アメリカで行われたGAに続いて2回目の参加となりましたが、今回の会議参加を通して、自分の能力の低さを痛感しつつも、世界中の仲間と楽しみながら多くを学べました。さらには、アジア・太平洋地域の代表として会議の運営にも関われ、普段



大学では出来ない貴重な経験をする事ができました。現在はこの夏に台湾で行われる夏のGAに向けて、国内外の仲間と活動を行っています。社会に貢献出来る医療者としての自身の将来に、今回の経験が何らかのよい影響を与えたことを確信しております。今後も学内外で積極的に勉学に励みつつ、このような活動を続けていく決意です。

最後に、このような素敵な機会を財政面でサポートくださった旭川医科大学、関係者の方々には感謝しきれません。また、手続きの面では学生支援課の職員の方に大変お世話になりました。この場を借りて、感謝を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。



## 海外留学助成制度を利用して

看護学科第4学年 大澤 茜



私は今回海外留学助成制度を利用して、今年の春休みにアメリカのL.Aで語学の勉強をさせていただきました。2週間という短い中でたくさんの人と出会い、同じクラスの人とコミュニケーションをとる中で自国と他国の文化の違いや授業に参加する態度の違い、医療

に対する考え方や現状の違いなど多くのことを学ぶことができました。また、ホームステイを通し他国の人と同じスペースで生活することによって2週間という短い時間ではありましたが他国籍の友人と食事後にお互いの国の話、友達の話、家族の話をしたり共に宿題をするなどとても貴重な時間を過ごすことができました。

この留学の経験を経て本当にたくさんのことを学ぶことができました。授業を受ける態度においては、日本では受身で授業を「聞く」ことが多いですが、私が通ったE.Cという学校では授業はみんなで「作る」ものでした。それぞれが自分の意思を相手に伝え、お互いを理解しようとする姿勢が日本には少し足りないと感じました。加えて、学校ではブラジルの薬剤師やモンゴルの医師も同じクラスで勉強をしていたので医療の話もすることができました。

その経験から自国の医療の現状がとても進んでおりとても恵まれた環境の中で患者さんに医療を提供することができており、私たちが現在学んでいることのレベルの高さを感じることができました。

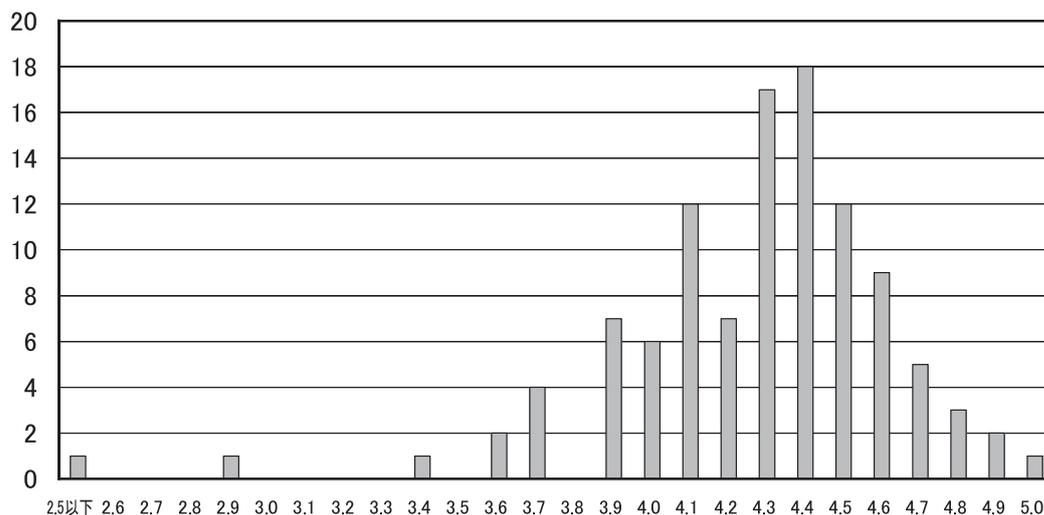
このような貴重な経験から、多くのことを学ぶことができたと感じます。この学びを今後の授業や就職後にも活かして行きたいと思います。



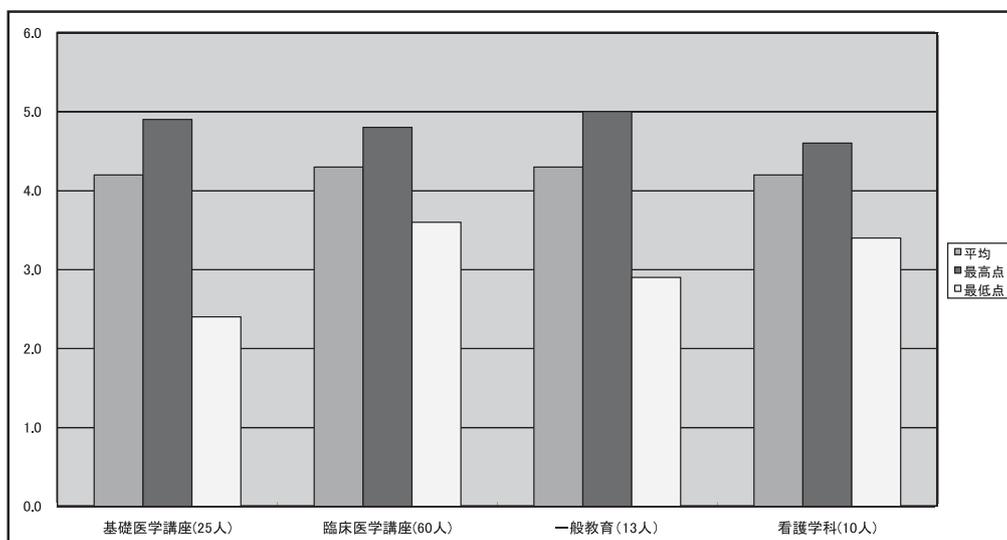
## 平成25年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得										点															
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	4	0	7	6	12	7	17	18	12	9	5	3	2	1

(実施人数105名 平均4.3)



### 部局別教員の平均点と最高・最低点



### 講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

## 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
 ④ やや思う（良い）  
 ③ どちらとも言えない（普通）  
 ② あまりそう思わない（あまり良くない）  
 ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：医学英語 I A（医学科第1学年通年／必修）  
 履修者数：116 配付数：105 回収数：95 回収率：90.5%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.9	4.4	4.4	4.0	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5

### \*評価に対するコメント

医学英語 I A 担当教員

医学英語 I A では、欧米の医学医療分野のニュース記事の読解および聴解のトレーニングに重きを置いていました。授業は、課題演習形式で行いましたが、学生一人一人が、毎回の課題を着実にこなしてくれました。英語学習は継続性が最も重要ですので、これからも頑張って勉強を続けて下さい。これからの活躍に期待します。

科目名：医学英語 I B（医学科第1学年通年／必修）  
 履修者数：118 配付数：108 回収数：105 回収率：97.2%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.1	4.2	3.4	4.0	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.2	4.4	4.4

### \*評価に対するコメント

医学英語 I B 担当教員

The medical profession is an important one, and students have much to learn as they grow into doctors. I hope that in my class students will grow to be comfortable with English, not only so that they can treat English-speaking patients, but so that they can make more contacts in the world to share their ideas and concerns. I will be glad if my students enjoy our class, and at the end of the school year feel satisfaction in being able to understand and communicate more in English.

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）  
履修者数：122 配付数：119 回収数：115 回収率：96.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.4	4.0	3.4	3.9	3.8	3.9	4.1	3.9	3.7	3.9	3.7	3.9	3.9

**\*評価に対するコメント**

医用物理学担当教員

総合評価（問14）で昨年に引き続き3.9の評価を、また科目構成・内容に関しても3.9前後の評価を頂いた。昨年度回復が見られた自己学習（問1と問4）の項目のうち問4（復習）で3.4と過去最高の評価だった。今後の課題は、物理初学者&履修者全ての学生の満足度を少しでも上げることです。当面の目標は、全ての評価項目で4以上の評価を頂けることです。担当して頂いた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：遺伝学（医学科第1学年後期／必修）  
履修者数：125 配付数：118 回収数：100 回収率：84.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.5	4.3	3.6	4.2	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.2	4.0	4.2

**\*評価に対するコメント**

遺伝学担当教員

総合評価点は昨年度と同じであった。どの問いもほぼ同じ評価点であったことから、科目全体の構成には大きな問題がないと考えられる。あえて僅かな差異を強調すれば、「学習意欲を増す構成であったが、内容が難しく試験にも負担感を感じた」という側面が反映されているといえよう。全体的な評価が向上するように、さらに学生の学習意欲や理解度を高める工夫をはかりたい。

科目名：基礎生化学（医学科第1学年通年／必修）  
履修者数：124 配付数：121 回収数：106 回収率：87.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.5	4.3	3.4	3.7	3.6	3.4	3.8	3.0	3.0	3.5	3.3	3.3	3.4

**\*評価に対するコメント**

基礎生化学担当教員

内容が難しかったという意見と、逆に充実感を得たという意見の両方が目立った。講義で説明した通り、現在の医学部カリキュラムの中で、基礎科目では少ない時間で多くのことを学ばねばならず、当然学生にも相応の努力が必要であるが、これは旭川医科大学医学部生であれば十分対応できる内容である。キーポイントは生活にメリハリをつける（よく遊びよく学ぶ、この境目を明確にする）ことと、受講や学習で油断しないことである。わからないことがあったらすぐに質問する。化学教室はそういった学生をいつも迎える準備ができています。緊張感を持って勉強することで、学習の意図や目標を理解し、他科目との関連を見通すことができるようになる。

科目名：基礎生物学（医学科第1学年通年／必修）  
履修者数：128 配付数：121 回収数：112 回収率：92.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.5	4.4	4.3	3.6	4.3	4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	4.2	4.3	4.0	4.4

**\*評価に対するコメント**

基礎生物学担当教員

総合ポイント4.4。ほぼ満足という評価ではありますが、昨年度からは0.3ポイントの減です。教員側が試験問題の配布と回収に手間取ったことで迷惑に感じたというコメントが複数あり、これが減点理由の1つではないかと考えています。来年度はこのようなことがないように注意します。この科目の学習主題はヒトの生物学であり、細胞から個体の様々な階層で起きている生命現象について先端的内容も含めて学習します。問の多くは4ポイント以上であることから、学生たちは医学の基礎としてこの科目の重要性を十分に認識し、学習に取り組んでいることがわかります。教員もできる限りわかりやすい講義にするよう努めるとともに、学生からの質問には時間をかけて丁寧に説明することを心がけます。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：56 回収率：96.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.4	3.0	3.9	4.1	4.0	4.2	3.8	3.5	3.8	3.8	3.9	3.9

**\*評価に対するコメント**

薬理学担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患や病態に使用される薬物について学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。予習している学生が少なかったが、短い時間内で多くの内容を講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれない。よって是非、予習をしてから講義に望んで頂きたい。本講義が、高学年での講義の理解の助けになれば幸いである。

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：112 配付数：89 回収数：41 回収率：46.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.6	3.3	2.5	3.6	4.1	4.0	4.1	3.7	3.4	3.6	3.8	3.3	3.5

**\*評価に対するコメント**

基礎医学特論担当教員

従来はレポート提出数が1つであったが、25年度から3つに増やした。14回の講義があるため適正な数だと思われるが、急な変更であったため、学生諸君はとまどったことであろう。しかし、アンケートにはこれに対する不満はなく、コーディネータとしてうれしく感じている。学生からは、レポート課題の提示がない授業があったこと、講義が難解すぎたり、特殊すぎる傾向があることなどが指摘された。来年度はこれらの点を改善していきたい。

科目名：医学英語ⅡA（医学科第2学年通年／必修）  
履修者数：107 配付数：81 回収数：70 回収率：86.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.5	4.3	3.3	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.5	4.6

**\*評価に対するコメント**

医学英語ⅡA担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。学生のみなさんは、授業の意図を汲み、毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。入試経路の多様化を考慮し、課題の量を調整したため、少し物足りないといった印象を持った学生さんもいたようです。量と難易度の調整を工夫していくとともに、課題の質も向上させていきたいと思えます。

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：116 配付数：116 回収数：55 回収率：47.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.8	2.5	3.8	3.9	3.7	4.0	3.5	3.5	3.7	3.8	3.2	3.7

**\*評価に対するコメント**

微生物学担当教員

本教科の平成25年度の授業評価は、全体の平均が3.7で、数値としてはこれまでの微生物学の評価とほぼ同程度か、やや良い評価でした。23年度から教科書を指定し、教科書を基本とした学習を構築していただくために、教科書を中心とする試験問題を本年も取り入れています。しかし、本年度のコメントにも「期末試験期間は、試験勉強の時間的制約があるので、中間試験などで試験を分散させてほしい」との記述が複数ありました。本教科で扱う病原体に関する情報はかなりの量になるので、期末試験前に「ちょこちょこ」と勉強しただけでは対応できません。これに対応するためには、学習態勢の意識的な構築が必須ですが、講義に出席はしているが、課題を課せられないと自主的学習はできないという特徴が顕著になっています。学生みなさんには、微生物学の履修要項に記載してある「自学、自習する」ためのより一層の積極的な学習態勢の構築に取り組むことを期待します。

科目名：医学英語ⅡB（医学科第2学年通年／必修）  
履修者数：70 配付数：62 回収数：59 回収率：95.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.3	3.9	3.4	3.9	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

医学英語ⅡB担当教員

Second-year medical students have a first priority to learn what they need to know to become useful, confident medical professionals. Within that context, I try to offer students a chance to 1) improve their listening through anecdotes in everyday English, 2) practice their communication skills by making announcements or exchanging everyday news, and 3) practicing more focused skills required in medical situations.

It is my hope that students will enjoy our class, and also become more comfortable using English, not only so that they can be better able to treat English-speaking patients, but so that they can participate more fully in a world that needs their skills, ideas and experience.

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：102 配付数：92 回収数：72 回収率：78.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.5	4.1	2.9	4.1	4.2	4.3	4.4	4.3	4.5	4.3	4.2	4.2	4.4

**\*評価に対するコメント**

寄生虫学担当教員

寄生虫はそれぞれ独自のライフサイクルを持ち、中間宿主、終宿主、媒介生物など多種にわたる生物がその存在に関係しているため、理解しづらい病原体です。そのため、文章のみでは説明しづらい箇所は、図などを多用し講義を行っています。「内容は理解しやすいものであったか」の項目が4.5であったことから、この目的は十分に達せられたと考えます。今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科目名：機能形態基礎医学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：107 配付数：104 回収数：81 回収率：77.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	3.9	4.1	3.3	4.0	3.8	3.1	3.6	2.9	3.1	3.3	3.7	2.9	3.3

**\*評価に対するコメント**

機能形態基礎医学担当教員

講義に対する評価（5～14）の平均は3.4であった。これは、昨年度の4.1より0.7低い。低値の主因は、履修主題や試験の難易度に関する問9と問13のポイント平均値がともに2.9という低値だったことにある。コメントにも、試験（本科目では全5回実施）の負担が重いことを訴えるものが多く、また、一部の出題について解答形式が難解であるという指摘があった。よりわかりやすい講義を目指すとともに、試験回数の調整、出題のブラッシュアップなどを検討・実施する予定である。

科目名：精神・神経病態医学（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：121 配付数：111 回収数：13 回収率：11.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.8	4.5	4.2	4.1	4.3	4.5	4.3	4.4	4.3	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2

**\*評価に対するコメント**

精神・神経病態医学担当教員

精神・神経病態医学は、精神医学、神経内科学、小児科学、放射線医学、脳神経外科学から構成されている。講義内容では重複を避け、可能な限り広範な内容を盛り込んだ結果、総合で4.2と良い評価を受けた。学生が講義に主体的に参画した授業もあり、学習効果がさらに上がったと考えている。

科目名：生体調節医学（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：118 回収数：78 回収率：66.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.2	4.0	3.1	3.9	3.7	3.9	4.1	3.9	3.9	3.9	4.0	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

生体調節医学担当教員

生体調節医学は、糖尿病、内分泌、腎泌尿器疾患に関して、第一内科、第二内科、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科の各所属教員により開講されている。今年度は、総合評価は3.81点、予習・復習に関する学生自身の評価は3.05点と例年通りであった。履修主題間での重複についての評価3.7点以外は、科目構成評価および科目内容評価の平均3.9点と、一定の評価は得られている。

科目名：生体防御医学（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：116 回収数：27 回収率：23.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	3.9	3.8	3.4	4.1	3.9	3.9	4.0	3.7	3.7	3.8	3.9	3.6	3.8

**\*評価に対するコメント**

生体防御医学担当教員

「学生による授業評価」によれば、予習や復習を行っているものは少ないようです。講義での学習効果を高めるためには、講義前に予習すること、基礎的内容を理解しておくこと、不明点は質問することなどが重要です。講義が素通りで終わらず有意義な時間となるよう、さらに学習意欲を高めて言ってほしいと思います。

科目名：腫瘍学1（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：121 配付数：115 回収数：87 回収率：75.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.4	4.0	2.9	3.7	3.6	3.7	4.0	3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6

**\*評価に対するコメント**

腫瘍学1担当教員

3年生後期では主として総論的な部分を扱う腫瘍学1を開講しているが、学生の間には腫瘍学1と2の違いが明確化されていないとの意見があった。また、プリントの質の問題、試験が難しいなど、これまでと同様の指摘もいくつかみられた。来年度はできるだけ改善していきたいと考えている。現在、腫瘍学1、2の講師陣の執筆による教科書を編集しており、まもなく出版される予定である。教科書を併用することで、モチベーションが高まり、学習が促進され、腫瘍学についての理解が深まることを願っている。

科目名：感覚器病態医学（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：107 回収数：23 回収率：21.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.2	4.0	3.5	4.1	3.6	3.4	4.0	3.5	3.9	3.8	3.8	2.7	3.3

**\*評価に対するコメント**

感覚器病態医学担当教員

本科目は感覚器病態医学とは言え、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、そして歯科口腔外科とそれぞれ独立した科目による構成である。もちろん関連した部分もあるが、学生諸君にとっては関連付けた学習がしにくい科目であったと思われる。評価の各問のポイントにもそのことが表れていた。特に試験に関しては、問題数の多さと時間のバランスが不適切であるとの指摘が多かった。今後検討し、より良い科目にしていきたい。

科目名：健康弱者のための医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：128 配付数：103 回収数：85 回収率：82.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.7	3.0	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.5	3.8	3.7

**\*評価に対するコメント**

健康弱者のための医学担当教員

「健康弱者のための医学」は、今年が開講二年目になる。昨年度の指摘を受け、内容に進行に変更を加えた4年生からは、本講義の内容は、日本では珍しい講義となるが、世界医学教育連盟（WFME）が示す医学教育グローバルスタンダードに合致する講義である。この講義から日本初の教科書を作れるように講義担当者に授業評価の結果をフィードバックし、次年度の講義の質を高めていきたいと考えている。

科目名：医療安全（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：119 回収数：72 回収率：60.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	3.6	3.0	4.0	3.6	3.8	4.1	4.0	4.1	4.1	3.9	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

医療安全担当教員

開講1年目にあった平易すぎる部分や冗長な部分を整理して、医療安全の総論・実践部分である輸血に関する講義を行いました。また今回は薬剤被害者の声を聞く講義を加えました。評価を見せていただくと、前年度と比較して臨床実習開始前の講義として役立つものになりつつあるのではないかと感じます。次年度は他の講義・実習とつなげていく部分で改善を目指す予定です。より良い講義時間を作るため、学生の皆さんにも協力をお願いします。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：128 配付数：128 回収数：34 回収率：26.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.2	3.9	3.3	4.0	4.1	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1

**\*評価に対するコメント**

臨床検査学担当教員

特にコメントはありません。学生さんに対しては、最低限おぼえなければならない知識ははやめに記憶して下さい。

科目名：医療概論4（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：129 配付数：96 回収数：23 回収率：24.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	3.8	3.9	2.9	3.6	3.8	3.7	4.0	3.8	3.7	3.6	3.7	3.8	3.7

**\*評価に対するコメント**

医療概論4担当教員

医療概論Ⅳでは系統別講義から漏れてしまう部分のカバーを目的とし、救急医療を社会的側面と臨床的側面から考えることを目指して開講しております。今回もカリキュラムに対しての疑問点が指摘されてきましたので、新年度に向け再度検討を行いました。成績評価の試験も系統別講義とは形式を変え、あえて記述式にしております。この形式に一部不満の声が上がっておりますが、今後も継続していきますので記述対策を怠りなく。

科目名：医療情報学（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：128 配付数：125 回収数：73 回収率：58.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.0	3.6	3.0	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	3.6	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

医療情報学担当教員

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療人として習得しておきたい領域である。医療経済領域に関しては、ある程度興味を持つ学生がいたようである。しかし、昨年度と同様、上記1)や2)のテーマが臨床医学からやや離れているためか、本講義全体として学習意欲を増すものであるかという点に関しては評価がやや低く、講義時期についても、低学年のうちがよいとする意見があった。臨床に直結し、学生諸君が理解しやすく、学習意欲を増すような講義内容にするよう検討したい。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年通年／必修）  
履修者数：129 配付数：120 回収数：100 回収率：83.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.0	4.0	3.2	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3	3.9	4.2

**\*評価に対するコメント**

症候別・課題別講義担当教員

症候別課題別講義は、旭川医大の臨床講義の3層構造の2層目に相当します。疾患別から、症候別の切り口への転換が、3層目の医学チュートリアルにつながります。講義の展開の関係で後期に配分が大きくバランスを欠いているとの指摘を受けました。来年度の時間割の作成に参考にしたいと思います。

科目名：臨床疫学（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：128 配付数：118 回収数：60 回収率：50.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.0	3.6	3.2	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.7	3.9	3.7	3.6	3.9

**\*評価に対するコメント**

臨床疫学担当教員

臨床疫学では、医師として必須となる臨床・疫学研究と論文の理解を正しくできるように、講義やcritical reading, SPSSを用いた演習を行っています。その中で、critical readingは国家試験にはほとんど関係しないかもしれませんが、提出しない学生が多くいたのは残念なことでした。しかしながら、医師になれば、すぐに原著論文へ関わることとなります。ぜひ、臨床疫学を基礎とした医師としての生涯学習を心がけて下さい。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年通年／必修）  
履修者数：128 配付数：123 回収数：58 回収率：47.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	3.7	3.5	3.1	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	3.7	4.0	3.8	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

臨床薬剤・薬理・治療学担当教員

平成25年度の授業について、全体的には、おおむね好評であったと思います。薬剤に特化した授業としては、2年生時の薬理学以来となるためか、学生の感想には「難しい」という評価が多くみられ、評価点数も他の項目よりも低くなっています。来年度以降は、この点について授業をわかりやすくするなど、改善していきたいと思っています。

科目名：感染免疫学（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：56 回収率：94.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.0	2.9	2.4	3.3	3.6	3.4	3.6	2.6	2.4	3.0	2.9	3.0	3.1

**\*評価に対するコメント**

感染免疫学担当教員

感染症は最もありふれた疾病であり看護の領域でもその予防を含め非常に重要な問題である。その科学的な理解は実践の場で日々生ずる問題の解決に対して大きな助けとなるものである。習得すべき知識や考え方は多岐にわたるが得られるものは大きい。必要最小限のことは教科書に書いてあり、講義ではそうなる根拠やさらに興味を引くような先端的な内容を紹介している。それをきっかけとしてさらに学習したり不明の部分質問してくれることを期待しているが近年そういった学生は少なくなっているように感じる。以前は少なくとも試験前には質問に来る学生がいたがそれもなくなった。常に知的好奇心を持ち続けることを望む。考えるトレーニングこそが大学生には必要なものであって暗記することを目的とすべきでない。

科目名：加齢と適応の医学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）  
履修者数：25 配付数：25 回収数：12 回収率：48.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.8	3.8	3.2	3.7	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	4.1	4.1

**\*評価に対するコメント**

加齢と適応の医学コース担当教員

超高齢化社会を迎えた我が国のアンチエイジングを考える上で不可欠な、加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを理解するためのコースです。総合評価4.1は、過去と比較してやや低値でしたが、主旨を理解しご協力いただいている複数の担当科の先生方のご努力には敬意を表します。また全項目に渡って安定した高評価を得たことは、コースとしての充実度を反映するものと嬉しく思います。老化のキーワードが共通するため、講義内容の重複が懸念される点には、今後若干の工夫が必要と思います。不老長寿は夢物語と言えない時代に、医学生とともに未来を志向する講義が展開できればと願います。

科目名：全人的医療・緩和ケアコース（医学科第3・4学年後期／選択必修）  
履修者数：23 配付数：22 回収数：8 回収率：36.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.8	4.5	4.6	3.9	4.6	4.3	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6

**\*評価に対するコメント**

全人的医療・緩和ケアコース担当教員

全人的医療・緩和ケアコースは、緩和ケアをキーワードとして、医師に必要な基本姿勢、プロフェッショナルリズムを考えることを意図したコースです。知識の伝達を目的とせず、インタラクティブティーチング、ロールプレイや小グループ学習を多用し、自ら参加し自ら学べるように工夫されています。今年も参加学生から高い評価をいただきました。最終評価はレポートで行っています。多くの学生がただ知識を連ねるのではなく、患者と相対するというのはどういうことか、良い医師とはなんなのか、ということについて拙くとも自らの言葉で書いてるのが印象的でした。本コースは医療プロフェッショナルリズム教育の一環として、今後も多くの学生に受講してもらいたいと思います。

科目名：EBM・CPCコース（医学科第3・4学年後期／選択必修）  
履修者数：12 配付数：11 回収数：6 回収率：54.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.0	4.2	4.7	4.7	4.2	4.7	3.5	4.7	4.3	4.5	4.7	4.8	4.2	4.5

**\*評価に対するコメント**

EBM・CPCコース担当教員

開講し9回目を迎えた。昨年度からはそれまでの30コマから15コマになり半分の時間にはなったが、同じ到達目標を目指している。前半をEBMコース、後半をCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。本年度の選択者は12名と、個々の学生へ対応を密に行うためには程よい人数であり、各自が積極的に取り組み順調に進んだ印象である。ただし今回はコースが年をまたぐように設定され、学生もCBTなどの準備と平行するために例年に比べて大変であった。総合評価はこれまで同様4.5とほぼ満足できるものであり、来年以降も同様な構成でコースを進める。

科目名：糖尿病・内分泌Up-Dateコース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：100 配付数：99 回収数：40 回収率：40.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.1	3.8	3.2	4.0	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

糖尿病・内分泌Up-Dateコース担当教員

「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、泌尿器科学、整形外科、眼科学、臨床検査医学の多角的視点から、学習することを目的としている。事前の予習については2.9点、復習については3.2点と例年通り評価は低いが、科目構成・科目内容及び総合評価は4点以上と一定の評価は得られている。学生には、世界標準の最先端医学を学ぶ機会を今後も提供したい。

科目名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：44 配付数：44 回収数：20 回収率：45.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.2	4.1	3.4	4.3	4.4	4.2	4.4	4.2	4.1	4.4	4.3	4.3	4.3

**\*評価に対するコメント**

生体構造機能蛋白・病態解析コース担当教員

全評価項目の平均点は4.1であり、大変よい評価だったと思います。各評価項目をみると、履修要綱やガイドランスにより履修目的が明瞭であったこと、履修主題に沿って講義がなされていたこと、内容の重複が避けられていたこと、が良かった点と考えられます。一方、事前の予習や授業後の復習を行った学生は少なかったようで、学生の自主的な勉強意欲を促し、講義の理解を深めることが必要であると考えられます。以上の評価結果をふまえ、学生の関心が高まるような講義内容を積極的に取り入れることで、本コースの企画をさらに充実させていきたいと思えます。

科目名：睡眠医学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：122 配付数：120 回収数：33 回収率：27.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.7	3.2	3.6	3.7	3.6	3.9	3.6	3.6	3.7	3.5	3.3	3.4

**\*評価に対するコメント**

睡眠医学コース担当教員

例年、本コースの選択者は少なく、寺子屋的雰囲気の中で睡眠医学を学んでいただいていた。しかし、このたびは数倍の人数の学生が選択したため、授業の雰囲気は一変したように思われる。当然、学生の評価方法も変更を余儀なくされた。学生の評価（全体）は3.4で、これまでの中では低いほうであった。今後、授業を受ける学生の人数が大きく変動することを予想して、講義形式や評価方法を準備する必要がある。

科目名：漢方医学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：65 配付数：61 回収数：24 回収率：39.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.5	4.6	4.5	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.5	4.6

**\*評価に対するコメント**

漢方医学コース担当教員

漢方医学コースは3年前に新設されたコースです。準備段階から学生さんにアンケートなどに協力してもらい、「学生のニーズに応えた講義」を志向しています。入門者の理解を容易にすることを目標に、全国的にもめずらしい試みとして、古典を省き、できるだけ臨床に則した15コマの講義で構成しています。今年度は3年生が37名、4年生が28名の計65名が受講してくださいました。昨年は、寄せられた要望への対応として、実習の待ち時間に歴史のDVDを観ていただきました。皆さんの評価はおおむね好評で、レポートの中には素晴らしいものが多く見られ、医学知識の提供にとどまることなく、共に学ぶことが大切であることを実感します。

このコースを履修した学生の皆さんが、医師になったとき、バイリンガルの様に西洋薬と漢方薬を使いこなす姿を想像して下さい。これは日本の医学生ならではの特権であり、それを逃す手はありません。そしてそれは、必ずや患者さんの福音になることでしょう。学生の皆さんのご協力に感謝し、漢方の小さな種が旭川にそして全国に育っていくことを期待しています。

科目名：感覚器医学の最先端コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：84 配付数：77 回収数：23 回収率：29.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.0	3.7	3.4	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

感覚器医学の最先端コース担当教員

本年は、感覚器医学の基礎・臨床そして最先端の全てを12名で講義した。内容に関する設問の評価が低い傾向があり、理解しやすく講義する工夫が必要と思われた。各設問に対する評価全てにおいて1または2を選択した学生が一人いたものの具体的なコメントはなかった。それ以外は4を中心として平均以上の評価を頂いた。各担当講座の必修科目との違いを明らかにし、今後の学習意欲向上につながる有意義な講義となるよう心掛けたい。

科目名：救急・プライマリーケアコース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：8 回収率：40.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.6	4.4	4.3	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.0	4.7

**\*評価に対するコメント**

救急・プライマリーケアコース担当教員

本コースは、少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し、履修内容も見直しをした結果、今年度も非常に高い評価を頂きました。

今後も、プライマリーケアの基礎知識と実際を学ぶことを主眼に構成し、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科目名：臨床遺伝学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：15 配付数：13 回収数：6 回収率：46.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.2	4.5	4.5	4.3	4.3	4.5	4.3	4.5	4.5	4.7	4.5	4.3	4.0	4.5

**\*評価に対するコメント**

臨床遺伝学コース担当教員

3、4年生の合同開講になるとともに全体のコマ数が半減となりました。そのため平成23年度まで「難しい」との評価の多い講義を3コマのみに変更しております。それ以外の12コマはロールプレイなどのセッションとミニレクチャーの構成になっています。ロールプレイなどのセッションは、医療面接での結果の説明から、最終的に患者さんに遺伝情報について伝える場合の問題点の討議するものと、それ以外には、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせしております。この形が好評のようで、今年度も4.5点を頂くことが出来ました。

科目名：臨床薬理学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：48 配付数：48 回収数：22 回収率：45.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.1	3.8	2.7	4.0	4.2	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2

**\*評価に対するコメント**

臨床薬理学コース担当教員

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与方法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方にその専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与するコースにしていきたいと考えている。

科目名：ニューロサイエンスコース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：51 配付数：50 回収数：20 回収率：40.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.8	3.8	2.6	4.0	4.1	3.9	4.3	3.9	3.8	3.8	4.2	4.1	4.0

**\*評価に対するコメント**

ニューロサイエンスコース担当教員

ニューロサイエンスコースに対する学生諸君からの評価は、例年通りの極めて普通の評価である。このコースは基礎医学を終了して臨床医学を履修し始めた学生諸君に、より深く脳科学への興味を抱いて欲しいという意図を持って開講した。開講当初は系統的な講義内容を踏襲してきた。しかし、近年は講義する教官が変わってニューロサイエンスの最近の動向についての講義や系統講義で不十分な内容を補足するための講義として利用されているという色合いも否めない。この評価の意味を考慮して新たな企画を準備する必要があるか否かを検討する必要があると感じている。今後は、「基礎医学としての知識や考え方が、臨床医学の履修ならびにその実践において極めて重要であること」、また、「臨床医学での疑問を解決するためには、基礎研究に根差した果てしない探究心が必要であること」という思考が学生諸君に届くコースとして発展させていきたいと考えている。

科目名：臨床感染症学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：74 配付数：72 回収数：20 回収率：27.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	3.9	3.9	3.6	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8

**\*評価に対するコメント**

臨床感染症学コース担当教員

本コースの平成25年度の受講学生は、第3、4学年合計で74名でした。平成23年度からカリキュラムが15コマの選択必修に改正され、感染症対策総論等に的を絞ったコンパクトなコースとして開講しています。しかも、それらの学習をした後、国試の過去問題及び分担講師の新作問題による期末試験を行い、国家試験やCBTの試験に備えた、学習ができるように配慮したカリキュラムになっております。本年も、出席点数を併せた総合点で評価し、多くの受講学生が高成績を挙げました。しかしながら授業評価は、昨年度に比べて、全体評価は3.8に低下しました。例年は、コメントに「面白い授業だった」などの記載が見られますが、今年は、ほとんどコメントはありませんでした。受講学生の倍増や一部講師の変動もあり、以前のようなおじんまりした授業とは異なり新密度が減ったせいかどうかはわかりませんが、今一度講義内容の検討を行い、さらに魅力のある講義内容に充実させたいと考えています。

臨床感染症に対する基盤構築は、国家試験やCBTに役立つばかりか、医師にとって欠くべからざる必須課題になっています。今後も、多くの学生諸君がこのコースを受講し、まじめに勉学されることを期待します。

科目名：英語 I A（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：53 回収率：89.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.5	4.6	4.1	3.8	4.2	4.3	4.2	4.3	4.1	4.2	4.1	3.9	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

英語 I A 担当教員

英語 I A は、英語による医療情報の読解・聴解、およびグループワークを主体とした実践的な授業を展開しています。皆さんそれぞれが、主体的に毎回の課題に取り組んでくれました。これからも継続的に英語の学習を続けていくことを期待しています。頑張ってください。

科目名：英語 I B（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：59 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.6	4.0	3.1	3.9	4.2	4.1	4.2	4.0	4.0	3.9	3.7	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

英語 I B 担当教員

Class 1B did a great job this year. A key point in learning English is to actually start speaking it. All the students were very active and participated in the pair-work and group activities. I hope that in the future, the students will continue to study English and have opportunities to use the English they have learned.

English is a global language, especially in the medical field, and there are many opportunities for medical professionals who can use English both within Japan and overseas.

I know the students of 1B will make excellent nurses in the future. I hope that the hard work and enthusiasm I've seen in class will still be there when the students enter the workforce.

I wish the best of luck to the students of class 1B.

科目名：感染免疫学（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：56 回収率：94.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.0	2.9	2.4	3.3	3.6	3.4	3.6	2.6	2.4	3.0	2.9	3.0	3.1

**\*評価に対するコメント**

感染免疫学担当教員

感染症は最もありふれた疾病であり看護の領域でもその予防を含め非常に重要な問題である。その科学的な理解は実践の場で日々生ずる問題の解決に対して大きな助けとなるものである。習得すべき知識や考え方は多岐にわたるが得られるものは大きい。必要最小限のことは教科書に書いてあり、講義ではそうなる根拠やさらに興味を引くような先端的な内容を紹介している。それをきっかけとしてさらに学習したり不明の部分質問してくれることを期待しているが近年そういった学生は少なくなっているように感じる。以前は少なくとも試験前には質問に来る学生がいたがそれもなくなった。常に知的好奇心を持ち続けることを望む。考えるトレーニングこそが大学生には必要なものであって暗記することを目的とすべきでない。

科目名：形態機能学（看護学科第1学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：56 回収数：56 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.3	3.9	3.0	4.0	4.1	3.8	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.2

**\*評価に対するコメント**

形態機能学担当教員

学内の先生方に熱心に講義して頂きました。学生の皆さんもよく勉強しました。本科目は、少ない時間で豊富な内容を習得するの必要があり、学生にはかなりの負担となっているようです。昨年度作成した問題集に、第101回看護師国家試験の問題を加え、誤記を訂正し、再編集して配布し、履修の助けとしました。数名の学生から講義時間不足の指摘がありましたが、履修時間が決まっているので、自己学習の時間を増やすようにして下さい。

科目名：代謝栄養学（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：57 回収率：98.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.3	4.0	3.2	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9	3.8	3.7	3.9	3.7

**\*評価に対するコメント**

代謝栄養学担当教員

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であってもほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであろうがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。医学科と比べての看護の教科書のページ数の少なさは必ずしも内容の容易さを意味しない。原理はどの科目でも変わらず従ってその難易度は同じはずである。これを効率よくより少ない時間でこなすためには予習が必要でそれで分からない部分を質問することが重要である。教官はこれに対しては十分応える必要があり折にふれこの方向の学習を学生に促すことが重要であると考えている。

科目名：精神看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：52 回収数：38 回収率：73.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	3.6	3.4	2.9	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.7	3.7	3.3	3.4	3.5

**\*評価に対するコメント**

精神看護学Ⅰ担当教員

21世紀は心のケアの時代と言われており、精神看護学Ⅰでは心のケアの重要性を認識し、精神の健康の保持増進、心の発達、精神状態に影響を受けた個人の生活行動、人間関係、また、看護全般に活用しうる精神看護学の知識や技術について学んでいます。

心の看護やケアのニーズは増加の一途を辿っていますし、看護の役割はとて大きいので、自省や自学自習の努力を忘れないで勉学に励んでいただきたいと思います。

科目名：精神看護学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：55 回収数：48 回収率：87.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.9	3.6	4.3	4.3	4.2	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.4

**\*評価に対するコメント**

精神看護学Ⅱ担当教員

精神看護学Ⅱは主として精神看護の技術や方法について学ぶことが大きな目的です。コミュニケーションのとり方、対象の健康ニーズの読み取り、判断などに基づき、適確な看護を提供できるよう目指します。こころの健康や精神疾患の回復、社会復帰に果たす看護の役割は、ますます増大しており、講義の学習が活用されることを願っています。

科目名：看護理論（看護学科第2・編入3学年後期／必修）  
履修者数：69 配付数：68 回収数：67 回収率：98.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.5	4.8	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.2	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2

**\*評価に対するコメント**

看護理論担当教員

今年度は自分の担当以外の看護理論についても個人ワークを課し、より主体的に学ぶことができていたようです。グループワークについては人数が多かった、話し合いの時間の確保が困難だったと意見がありましたので次年度の検討課題とします。

科目名：英語ⅡA（看護学科第2学年通年／必修）  
履修者数：70 配付数：66 回収数：59 回収率：89.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.3	4.1	3.8	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2

**\*評価に対するコメント**

英語ⅡA担当教員

英語ⅡAは、看護科第2学年の学生と看護科第3学年の編入生が履修する科目です。ガイダンスで行ったアンケート調査結果より、英語力に個人差があるばかりでなく、英語を苦手と感じている学生もかなりの割合を占めることが判明しました。このため、難易度の低いVOAレベルの英文を多読する方針をとりました。学生のみなさんは、しっかり課題に取り組み、実力を伸ばしてくれたという印象を持っています。この調子で頑張ってください。

科目名：英語ⅡB（看護学科第2学年通年／必修）  
履修者数：70 配付数：62 回収数：59 回収率：95.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.3	3.9	3.4	3.9	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

英語ⅡB担当教員

I am so happy to have the opportunity to teach nursing students. Nursing is a vital and noble profession. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, caring, hard-working reliable, and trustworthy. You are a person to be respected. I am very proud that I have several nurses in my family. So I feel privileged to be able to teach nursing students, and I hope that in my class students will become more comfortable with English, so that they have confidence in treating English-speaking patients in their future career.

科目名：薬理学（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：56 回収率：96.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.4	3.0	3.9	4.1	4.0	4.2	3.8	3.5	3.8	3.8	3.9	3.9

**\*評価に対するコメント**

薬理学担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患や病態に使用される薬物について学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。予習している学生が少なかったが、短い時間内で多くの内容を講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれない。よって是非、予習をしてから講義に望んで頂きたい。本講義が、高学年での講義の理解の助けになれば幸いである。

科目名：看護倫理（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.9	4.7	4.3	4.2	4.4	4.3	4.3	4.5	4.3	4.0	4.1	4.1	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

看護倫理担当教員

看護倫理は24カリキュラムの新科目です。基本的な内容を講義し、紙上事例・DVD事例を用いたグループワークと発表を通して、個人々が看護倫理について考える構成にしました。

教員から教わった気がしない、という感想がありました。倫理観は誰かに教えられるものではなく、各自の内側から醸成されるものです。そのように意図した授業になったと思います。

科目名：成人看護学Ⅰ（看護学科第2学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：35 回収率：59.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.7	4.5	4.1	3.8	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.0	4.2

**\*評価に対するコメント**

成人看護学Ⅰ担当教員

「成人看護学Ⅰは、成人期にある対象者の成人看護学の概論、慢性期、リハビリテーションおよび回復期、急性期、緩和ケアと終末期などの経過別の看護と呼吸器、循環器、腎、内分泌などの健康障害のある患者への看護を講義しています。このように広範囲の内容なので予習・復習が欠かせないのですが、そのポイントが3点前半と低くなっています。試験の範囲も広いですので、しっかり予習・復習が行えるように教育方法を工夫していきたいと思っています。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：57 回収数：49 回収率：86.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.5	4.1	3.5	4.1	4.2	4.0	4.2	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9

**\*評価に対するコメント**

小児看護学担当教員

学生の講義に対する評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足の得られる講義であったと考えます。しかし、例年と同様に予習・復習に関する評価は低いという結果となりました。今後は事前・事後学習課題を講義に取り入れ、学習が深められるようにしたいと思います。また、自由記載では講義で使用したレジュメに関する指摘が多く、授業方法の改善点として今後の課題にしたいと思います。

科目名：高齢者看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：55 回収数：52 回収率：94.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.3	3.8	3.4	3.9	4.0	3.6	3.7	3.9	3.7	3.8	3.4	3.8	3.5

**\*評価に対するコメント**

高齢者看護学Ⅰ担当教員

総合評価は、3.5で学生の満足度はおおむね満足していたと言えよう。科目構成、科目内容に対する評価では問7が、最も低く3.6であった。必要に応じて予定を変更せざるを得ない場合はあるが、配慮が求められる。問12は3.4でやや低く、今後さらに学習意欲を高めるよう工夫したい。

科目名：疾病論Ⅰ・Ⅱ（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：54 回収数：54 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.9	3.5	3.2	3.8	3.8	3.8	4.0	3.9	3.8	4.0	4.1	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

疾病論担当教員

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であってもほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであるがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。疾病論はカバーする領域が広く講師は医学科の各科の多くの先生方が担当している。それぞれの得意分野を講義されており従って内容はレベルが高いと思われる。一方で担当教官がテーマ毎に異なることから全体としてのレベルの統一性に欠けていることは否めない。従って学んだことを基礎として自分で学習することで達成レベルを調整することが必要である。その際に教科書を活用し不明な部分は自ら尋ねることでそれへの支援は各教官から容易に得られる。学生による評価の善し悪しの判断根拠に授業内容において重要点の指摘があるかないか（試験に出るかどうか）が良く出てくるがこれは自分の学習の結果、各主題で何が重要なか自身が判断するものであって他人に指摘されるべきものではないと思う。教科書で説明されていることについて何故そう言えるのか、理由をどんどん突き詰めて行って最終的に突き当たる部分が重要な部分なのではないか。考えるトレーニングこそ大学生には必要なのではない。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：57 回収数：54 回収率：94.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.4	4.2	3.6	4.3	4.2	4.0	4.2	4.0	4.0	4.1	4.2	4.1	4.2

**\*評価に対するコメント**

母性看護学担当教員

講義企画に対する学生評価について考えるところがあります。講義企画については講義内容、効果的順序、限られた時間の中での配分など企画について工夫をしていますが、これらに対する評価は数値でのみ表されているようです。個々の教員の評価についても参考にしていますが、企画全体をとらえた評価を学生には期待します。

科目名：看護研究（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：70 配付数：68 回収数：63 回収率：92.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.2	3.5	3.3	3.5	3.2	3.2	3.2	3.1	2.8	3.0	2.9	3.2	3.0

**\*評価に対するコメント**

看護研究担当教員

この科目は、研究のプロセス論、量的および質的な研究手法の基礎、コンピュータを用いたデータ解析演習、および4年生の卒業研究発表会に参加しDiscussionすることから構成してあります。4年生での卒業研究、更には就職先での院内研究のための基盤づくりを意図しています。単に教えてもらうのではなく、自ら学ぶという大学らしい勉強法を身につける好機です。4年生の卒業研究発表会への参加について、自分の卒業研究をイメージするのに役立つと思うとの感想がありました。また、定年を迎える教員へのねぎらいの言葉もあり、さすが3年生、他者への配慮ができると、感じました。

## 実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）      ④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）      ② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生化学実習（医学科第1学年通年／必修）  
履修者数：113 配付数：111 回収数：102 回収率：91.9%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.6	4.0	4.4	3.5	3.7	3.1	3.8	3.9	3.9	3.6	3.1	3.5	3.7	4.1	4.0	3.5

### \*評価に対するコメント

基礎生化学実習担当教員

実習設備および指導担当者数や指導担当者間の連携についての要望があった。教授と准教授が平成24年から新任であることから、それらの改善を順次進めているが、今後さらに進めて行く。一方、実習の課題や内容は医学科1年生の教育として適切な水準に達している。上級学年の実習（生化学実習）を見据えた準備になることはもちろん、将来幅広く医学、生命科学を学ぶための基礎となる内容も今後一層充実させていく予定である。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）  
履修者数：116 配付数：103 回収数：89 回収率：86.4%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.7	4.7	3.9	3.7	4.1	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.9	3.9	3.8	4.0	4.1	4.1	3.8

### \*評価に対するコメント

心理・コミュニケーション実習担当教員

受講者についての評価では、出席（4.7）と受講態度（3.9）についての評価が高く、かなり熱心に取り組んでいたと思われる。一方、実習の計画や内容全般についての評価は、ほとんどが「普通」から「良い」の範囲（3.7-4.1）であり、また、環境や人員についても同程度の評価（3.9-4.0）が得られた。だが、全体の満足度の評価は、3.8であり、作年度と較べて0.2ポイント低下した。コメント欄では、前半の心理コミュニケーション関係の実習を評価する声が見られたが、後半の基礎論に対して建設的なコメントが見られた。次年度は、これらの点を含めてさらなる改善に取り組んでいく所存である。

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）  
履修者数：112 配付数：97 回収数：85 回収率：87.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.7	4.6	4.1	4.4	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.0	3.7	3.7	3.7	4.0	4.2	4.3	4.0

**\*評価に対するコメント**

統計学実習担当教員

準備教育に求められる内容を、限られた時間数で達成することが出来ました。  
実習日程が集中して詰まっていますが、学生各自が熱心に取り組み、それぞれ高い能力を示された結果と受け止めています。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。  
全体評価は「4.0」とまあまあの評価をいただきましたが、実習中、フォローアップでの意見を参考にして質を高めていきます。

科目名：形態学実習（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：112 配付数：97 回収数：85 回収率：87.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.7	4.6	4.1	4.4	3.9	4.0	3.8	4.1	4.1	4.0	3.7	3.7	3.7	4.0	4.2	4.3	4.0

**\*評価に対するコメント**

形態学実習担当教員

ほぼ例年通りで、良い評価を受けたと考える。施設・設備も充実してきた中で、学生と教員共にかかなり満足できる実習に近づいてきていると考えている。今後も改善できるところは改善を行い、さらに良い実習となるようにしていきたい。

科目名：衛生・公衆衛生実習（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：128 配付数：124 回収数：33 回収率：26.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.8	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.5	4.4	4.2	4.4	4.6	4.5	4.4

**\*評価に対するコメント**

衛生・公衆衛生実習担当教員

健康科学のみでの実習となって2年目です。基礎的技術を学ぶ全体実習とグループ個別テーマで行う実習とその実習発表会からなります。評価全体は昨年とほぼ同じですが、事前予習の項目が3点台です。実習全体の構成、発表会、レポート作成等につきシラバスや事前配付資料に記載されている事に気付かない学生さんがあるので、来年は周知を徹底します。学年全体スケジュールとの兼ね合いもありますが来年度は実習発表会前に十分な期間を取りたいと思います。

科目名：法医学実習（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：128 配付数：123 回収数：80 回収率：65.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.1	3.8	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

法医学実習担当教員

医学部教育における法医学の到達目標は、異状死体の検屍（検案）と、実践に即した医師法の適切な理解である。学生サイドからは骨実習が好評であり、興味をもって受け入れられたことに感謝している。全体の授業評価の評点も概ね4点以上であり、好評であったと言えよう。

科目名：自然科学実験（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：61 配付数：57 回収数：54 回収率：94.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.8	4.5	3.6	4.2	3.3	3.5	2.9	3.5	3.8	3.6	3.2	2.9	3.0	3.5	3.9	3.4	3.5

**\*評価に対するコメント**

自然科学実験担当教員

本年度の総合評価は、例年より若干低下した。具体的項目では、問8、13及び14が低い評価であった。今年度、新たなテーマで一部の実習をおこなうことになっただけでなく、実験実習棟工事の関係で2教室に分かれて実習する不都合も生じた。それらの事情から、実習の進行が必ずしもスムーズでなかった点があったと考えられる。学生のモチベーション向上のため、これらの問題の解決と実習の改善をはかりたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：54 回収数：46 回収率：85.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.4	4.1	3.9	4.3	4.3	4.2	3.9	4.2	4.0	3.7	4.0	3.9	3.8	4.0	4.2	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅱ担当教員

概ねの評価は4.0以上で、演習は今後の学習への意欲を増す内容であったようです。この科目ではよりよく学ぶために演習の前後に事前課題、事後課題を課しています。多くの学生は事前課題を通して予習し、まじめに学習していました。事前学習をもっと早く提示してほしいとの意見がありましたので、来年度検討したいと思いません。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：57 回収数：57 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.7	4.6	4.3	4.5	4.4	4.5	4.3	4.3	4.3	4.1	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.6

**\*評価に対するコメント**

生体観察実習担当教員

7項目の実習を、4グループ総当り方式で実施しました。担当の先生方に熱心に指導して頂きました。生理機能の実習では、学生自身が測定者であると同時に、互いに被検者となって患者の立場を体験してもらいました。解剖の実習では、実際の人体に触れて、その構造について理解を深めてもらいました。学生の出席率も高く、熱心に取り組んでもらいました。時間不足との指摘もありましたが、時間内に成果を出すのも、実習のうちです。

科目名：実践看護技術学Ⅰ（医学科第3学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：35 回収率：58.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.3	4.1	4.0	4.1	4.0	3.9	3.9	4.0	4.2	3.7	3.8	3.7	3.6	3.8	3.9	3.9	3.8

**\*評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅰ担当教員

「実践看護技術学Ⅰ」では、健康障害を起こしている成人期の事例を設定し、既習の看護技術や知識をその事例でどう応用するかをグループで演習しています。単元に様々な内容を含めているため事前学習が必要ですが、今回解答してくれた学生の評価では例年3点台だった問11、問12が4.0点以上になっており、学生が事前予習をして演習に臨んでいたのではないかと思います。これからも演習で使用する既習技術などを明示するなど効率よく演習ができるように工夫していきたいと思えます。

科目名：実践看護技術学Ⅲ（医学科第3学年通年／必修）

履修者数：70 配付数：68 回収数：58 回収率：85.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.7	4.2	4.0	4.1	4.0	4.0	3.7	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.9	4.1	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅲ担当教員

総合評価は3.9であり、昨年度とほぼ同じで、おおむね学生は満足しているといえる。大きい項目で見ると演習計画、演習内容、演習環境のいずれも評価は高かった。

60名の学生を非常勤講師も含めて2～3人の教員で指導せざるを得ないので、より密度の濃い演習を実施するための方策を今後も追求したい。また、技術の習得には時間内だけでなく自主的な学習が不可欠である。

科目名：基礎看護学実習Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：40 回収率：67.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.8	4.7	4.6	4.3	4.3	4.1	3.4	4.3	4.5	4.0	4.0	3.9	4.5	4.4	4.6	4.0	4.2

**\*評価に対するコメント**

基礎看護学実習Ⅱ担当教員

一部病棟閉鎖となり、実習期間が延長となった学生もありましたが、皆が目標達成に向かって実習に取り組んでいました。記録の量、教員による指導の違いは今年も様々な意見がありました。改善に向けて努力します。

## 臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。	
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。	⑤ 強くそう思う (非常に良い) ④ やや思う (良い) ③ どちらとも言えない (普通)
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。	② あまりそう思わない (あまり良くない)
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。	① 全くそう思わない (良くない)

科目名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：39 回収率：65.0%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.0	3.9	4.2	3.5	3.8	3.9	4.1	3.9	4.0	4.2	3.8	3.9

### \*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅰ担当教員

「成人看護学実習Ⅰ」は、主に慢性疾患患者を対象に、内科系の3病棟で実習を行っています。今年度の学生評価の回収率は低いですが、回答してくれた学生の評価結果は平均で4.5点と高く、満足度の高い実習となっていたようです。2週間看護過程を展開するための適切な担当患者の選定や、実習担当教員および臨床指導者の助言が得られていたことが満足感につながっていたと考えられます。これからも、実習病棟と連携をとりながら、充実した実習となるよう工夫していきたいと思えます。

科目名：外来機能実習（看護学科第3学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：44 回収率：73.3%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.5	4.3	4.6	4.6	4.6	4.5	4.3	4.5	4.6	4.3	4.5

### \*評価に対するコメント

外来機能実習担当教員

点数にばらつきがなく、概ね良好である。

各実習場所における役割を通して外来機能の特徴を理解することができていた。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：41 回収率：69.5%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.1	4.4	4.5	4.0	4.1	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3

### \*評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰ担当教員

この実習は、健康な小児を理解することが目的です。総合評価は4.0以上であり、学生にとって概ね「満足できる」実習であったと考えます。残念に思うことは、この実習で学んだ内容が次の小児看護学実習Ⅱ（病気を持った小児と家族の看護を学ぶ）に活かされていない現状があることです。今回の実習が今後の学習に繋がり、意義あるものになることを期待します。

科目名：地域保健看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：70 配付数：70 回収数：27 回収率：38.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.4	4.4	4.5	4.4	4.6	4.2	4.4	4.7	4.5	4.3	4.4

**\*評価に対するコメント**

地域保健看護学実習Ⅰ担当教員

問1～問12まで4.3～4.6と大変高い評価をいただきました。

この実習は、地域の住民の健康を守るために専門職である保健師がどのような活動をおこなっているのか実際に保健事業に参加しながら学ぶ実習です。一人ひとりの患者さんの看護から地域全体を見渡した看護へと急に視野が広がり戸惑うこともあったようですが温かい住民に支えられながら手ごたえのある実習になったようです。今年は上富良野町、富良野市、鷹栖町、当麻町、東神楽町、上川町の6町で行いそれぞれの地域に溶け込みながら成果をあげることができました。人々の生活を理解してこそその看護であることを学んだようです。

科目名：地域保健看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年後期／必修）

履修者数：70 配付数：70 回収数：30 回収率：42.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.7	4.2	3.9	4.8	4.5	4.3	4.4	4.8	4.6	4.3	4.6

**\*評価に対するコメント**

地域保健看護学実習Ⅱ担当教員

この実習は、1グループ35人、二か所の保健所で行う実習です。評価も高く満足度の高い内容になったようです。大人数の中、成果を上げるためには学生の自主的な学習姿勢が鍵になったと思います。自分たちで学びたい内容をプログラムし、テーマによって小グループに分かれ、インタビュー、家庭訪問、会議参加、事例検討会を行いながら、地域の健康課題解決に向けケアシステムの構築のための連携技術について学ぶことが出来ました。個人学習ではなく、グループで何度も話し合い資料作成するなど、グループの中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮し合い、チームで動くためのよいトレーニングになったとの声も聞かれました。学生の成長を感じました。

## 2014年度医大祭を終えて

旭川医科大学大学祭実行委員会 実行委員長 田 藏 昂 平



2014年度医大祭実行委員会委員長の田藏昂平です。6月7日(土), 8日(日)に行われました第40回医大祭「HAPPY<sup>FOR ALL</sup> 40」が無事に終了致しました。

今年度は40周年の節目を迎える旭川医科大学の学園祭として、「学生をはじめ、旭川を訪れたお客様や医大祭に関わっていただいた全ての人を笑顔にできるように」という願いを込めて「HAPPY<sup>FOR ALL</sup> 40」というテーマの下、医大祭を運営して参りました。

講演会では早稲田大学国際教養学部教授 池田清彦氏 を講師としてお迎えし、「有限の命をどのように生きたらよいか?やがて消えゆく我が身なら?」というテーマで、様々な視点から人生学について講演していただきました。

医学展示ではご来場頂いた皆様に「HAPPYとはなんだろうか?」ということを考えて頂き、ご自分やご家族にとって「HAPPY」とは何かのヒントを

一つでもお持ち帰りいただけるような企画をご用意しました。旭山動物園とのコラボ企画では動物の生と死をテーマにし、展示パネルを作成しました。また、坂東元園長にも講演をしていただきました。

公開講座では川辺淳一特任准教授に「生命の母なる海 毛細血管のはなしー病気も老いも再生も毛細血管から……」というテーマで講演していただきました。なかなか普段聞くことの出来ない毛細血管のお話を市民の皆様にもわかりやすく講演していただき、大変有意義な時間だったと思います。

お笑いライブでは1000名を超える市民の皆様、大学関係者の皆様にご来場していただき、大盛り上がりステージとなりました。

他にもたくさん企画があり、その全てにおいて大きなトラブルもなく無事に終わることができました。これも全て医大祭に関わって頂いた職員、学生の皆様のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。運営委員は変わりますが、来年度以降も医大祭は続きますので、変わらぬご支援のほどよろしくお願い致します。





## 安否確認システムについて

本学の危機管理体制の強化を図ることを目的として、地震等の発生又は災害による大規模な被害が予想される場合に、学生及び教職員の安否状況を迅速に把握し、災害時の安全確認を速やかに行うための一手段として、安否確認システムを導入しました。

### 1. システム概要

災害が発生すると、次の手順にて学生及び教職員の安否確認が実施されます。

- ① 災害発生後、本学から安否を確認するメールが送信される。
- ② 携帯電話メールアドレスに①で送信された『安否確認メール』が届く。
- ③ 自分の安否状況をメールを利用して報告する。
- ④ 本学からの安否確認メールに返信した場合、保護者にも返信したメールが転送されます。

### 2. 登録方法について

「安否確認システム」は個人所有の携帯電話の電子メールを活用することを基本とします。メールアドレス等の登録は各自で行ってください。

なお、保護者の方も、携帯の迷惑メール対策で指定受信設定をされている際は、@anpi.mailds.jp及び@asahikawa-med.ac.jpのドメイン指定受信設定をされるようお願いいたします。

詳細は次のログインページに記載されています。

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/shomu/local/anpi/>

今後、安否確認システムを利用した訓練の実施を予定していますので、未登録の場合は、速やかに登録してください。

## 駐車場の利用マナーについて

本学駐車場を学生が利用する場合は、事前許可申請が必要であり、許可された車輛のみ、有料で駐車が可能となっています。

許可されていない車輛をやむを得ず一時的に駐車する場合においても、有料であり、あくまでも緊急避難的な利用に限られます。

本学学生が駐車場一時利用パスカードにより入構した後、交通事故を引き起こしかねない危険かつ不正な方法により、料金を支払うことなくゲートを通過して出構する事例が発生しています。

このような不正行為に対しては厳正な対処で臨みますので、注意してください。

## 教育用メールアドレスについて

大学から学生への各種通知は、教育用メールアドレスを利用して電子メールで行っています。受信トレイの容量が大きくなると、新規メールを受信でき

なくなるため大切なお知らせが届かないといったケースが時々見受けられます。不要なメールは削除する等し、常にメールを確認してください。

## 訃 報



本学一般教育英語講師 江本博昭氏（享年34才）には、平成26年5月2日（金）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、平成23年4月より本学一般教育英語に勤務されました。

同氏の職務に対する姿勢は、誠実な人柄を如実に物語るものでありました。

教育面においては、医学科第1学年・第3学年及び看護学科第1学年の英語教育を担当され、毎週、

担当学生全ての添削指導を行なう等、同氏の熱意あふれる指導は、学生からも高い評価を得ておられました。

また、研究面においては、生成文法統語論を専門とされ、特に、ここ数年研究されていた削除現象においては、同氏の類い稀な資質を遺憾なく発揮し、国内外の研究者から同現象の新進気鋭の若手研究者として認知される等、将来を嘱望されておりました。

同氏の明るい笑顔と朗らかな笑い声は、共に働く者にとっても、大きな支えとなっております。

心よりご冥福をお祈りいたします。

（総務課）



本学名誉教授笹森秀雄氏（享年90才）には、平成26年6月13日（金）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和47年7月本学創設準備室勤務、翌年9月本学医学部社会学教授に就任され、平成2年3月定年により退職、同年4月本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、本学の発展に多大な貢献を

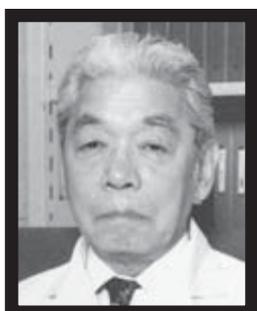
なされました。

また、学術研究面では、都市社会学の分野においては、世界に先駆ける方法論的問題提起を行ない、また日本の農村・都市・地域社会の分析においては、数多くの優れた著書・論文を発表し、常に日本社会学会を主導されておりました。

多年にわたり社会教育の振興に貢献され昭和60年10月社会教育振興功労表彰（文部科学大臣表彰）を受賞、平成14年4月勲三等瑞宝章を受章される等、その功績はまことに顕著でありました。

この度、生前の功績により、叙位を授与されました。

（総務課）



本学名誉教授牧野幹男氏（享年87才）には、平成26年5月30日（金）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和51年10月本学医学部附属病院教授に就任され、同検査部長を併任され、平成4年3月定年により退職、同年4月本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、本学の発展に多大な貢献を

なされました。

また、学術研究面では、一般病理形態学や肺の拡散能力に関する研究で成果を挙げられ、癌、糖尿病、甲状腺疾患などの病態解析にも取組まれました。また大学運営面において、臨床検査医学講座開設に尽力し、全国国立医科大学での臨床検査医学部門講座化の規範として多大な貢献をなされました。

医療人の養成及び医療技術の向上に貢献され、昭和56年9月北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞、平成16年11月瑞宝中綬章を受章される等、その功績はまことに顕著でありました。

（総務課）

## 教 員 の 異 動

H26.4.30	辞 職	病院整形外科	講 師	熱 田 裕 司
H26.5.1	昇 任	病院整形外科	講 師	小 林 徹 也
H26.5.1	採 用	病院第二外科	講 師	川 原 敏 靖
H26.5.31	辞 職	病院小児科	講 師	古谷野 伸
H26.6.1	採 用	教育研究推進センター	准 教 授	高 橋 寿 明
H26.6.26	昇 任	医学部看護学講座	教 授	伊 藤 俊 弘
H26.6.30	辞 職	医学部外科学講座（消化器病態外科学分野）	准 教 授	谷 口 雅 彦
H26.6.30	辞 職	医学部救急医学講座	准 教 授	赤 坂 伸 之
H26.6.30	辞 職	医学部外科学講座（消化器病態外科学分野）	特 任 講 師	松 野 直 徒
H26.7.1	昇 任	医学部救急医学講座	講 師	角 浜 孝 行
H26.7.1	昇 任	病院第一外科	講 師	齊 藤 幸 裕
H26.7.1	採 用	医学部外科学講座（消化器病態外科学分野）	講 師	松 野 直 徒
H26.7.10	昇 任	医学部皮膚科学講座	教 授	山 本 明 美
H26.7.10	昇 任	医学部病理学講座（免疫病理学分野）	講 師	及 川 賢 輔
H26.7.31	辞 職	病院麻酔科蘇生科	講 師	鈴 木 昭 広
H26.8.1	昇 任	医学部救急医学講座	講 師	丹 保 亜希仁
H26.8.1	採 用	病院麻酔科蘇生科	病院准教授	鈴 木 昭 広

## あなたの写真で「かぐらおか」の表紙を飾ってみませんか！

学生支援課では広報誌「かぐらおか」の表紙に掲載する写真を募集しています。

課外活動の様子や、旅先での様子、趣味の世界等々題材を問いませんので、気軽にふるって応募して

ください。

ご提供いただける職員・学生の方は、学生支援課学生総務係までご連絡ください。なお、写真の採用はご一任いただきます。